

幼兒の教育



號二第 號月二 卷一十四第

內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (再版)

觀察の實際

菊判 一三〇頁
定價 金壹圓
送料 東京 金六錢
市内 金九錢
其他 金九錢

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

幼兒の教育 (月刊)

菊版 三五〇頁 定價 金壹圓五拾錢
送料 市内 金六錢
地方 北海道・臺灣・
樺太・朝鮮・滿洲 金拾五錢

定價 金壹圓
送料 金六錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料 金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料 共

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 日本幼稚園協會編 振替東京一七二六六 日幼幼稚園協會 東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

倉橋惣三著
育ての心
定價 一、五〇〇、一四
送料

東京、神田區駿河臺三丁目六
刀江書院

倉橋惣三著
幼稚園保育法眞諦
定價 二、八〇〇、一六
送料

東京、神田區神保町一丁目六七
東洋圖書株式會社

倉橋惣三共著
日本幼稚園史
定價 三、八〇〇、二〇
送料

同上

倉橋惣三著
幼稚園雜草
定價 二、五〇〇、一四
送料

東京、日本橋區、大傳馬町
内田老鶴圃

日本幼稚園協會編
幼兒に聽かせるお話
定價 三、八〇〇、一四
送料

同上

日本幼稚園協會編
幼兒の樂しむお話
定價 二、八〇〇、一四
送料

同上

最新
作曲 幼稚園唱歌集
定價 六一錢
送料 六錢
發行所 日本幼稚園協會

目次

一、コッキフレ	倉橋惣三作詞	二、たんぼぼ	大森敏子作曲
二、幼稚園のお庭	倉橋惣三作詞	三、すずめ	高城富貴子作曲
三、だるまさん	井上正武作詞	四、チューリップ	三雲泰子作曲
四、お洗濯	小松多雄作詞	五、春が来た	久保紀子作曲
五、汽車	相田貞作詞	六、貝拾ひ	池田孝二作曲
六、雪よ降れ降れ	梁田真作詞	七、うさぎ	宅富貴子作曲
七、煙	中山平作詞	八、七五三	高城富貴子作曲
八、てんとう蟲	津村孝二作詞	九、お母さま	高城富貴子作曲
九、春	坊田清作詞	十、てんてん	高城富貴子作曲
十、お窓の雨	清水あき作詞	十一、おはなし	西村美奈子作曲
十一、小鳥の歌	吉田トミ作詞		高城富貴子作曲
	井上逸子作詞		高城富貴子作曲
	伊藤太郎作詞		高城富貴子作曲
	弘山米子作詞		高城富貴子作曲
	杉山おはなし		高城富貴子作曲

最新
作曲 幼稚園唱歌集の第二版が出来ました。本會宛て
しく御注文下さい。御注文の際は是非前金にてお申し込
み下さい。
日本幼稚園協會

生徒募集

本科生 四十名 研究生 若干名

願書受付三月二十日迄規則書は參錢切手
封入の上申込まれよ。

創立以來廿六年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、

附近に森あり、野あり、川ありて四時自

然の恩惠を受け、本校の特色とする自然

觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用

の手工等材料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三

省線 西荻窪下車直南約五丁

生徒募集

一定員 七拾名

一出願期限 三月末日迄

規則竝ニ入學案内ハ三錢切手封入申込マレタシ

東京市品川区大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バ
スニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所 長 土 川 五 郎

顧問兼講師 倉 橋 惣 三
東京女子高等師範教授

保姆生徒募集

一、募集人員 六拾名

二、出願期日 二月一日ヨリ三月中

三、入學案内 入用の方は參錢切手同封申込ありたし

昭和十六年一月

東京目白保姆學校

所在 東京市淀橋區下落合三丁目二三八八
電話 落合長崎二五五九番

校長 和田 實

生徒募集

一、募集人員 一百名

一、出願期限 自二月一日
至三月三十一日

無試験檢定ノ特典アリ

規則書入用ノ方ハ二錢切手封入申込マレタシ

東京市杉並區高圓寺三ツ二九八

聖心學園内(電話中野二四八四)

省線高圓寺驛 青バス 西武電車高圓寺三丁目下車

東京保姆專修學校

△定員 六十名
△締切 三月二十日

△保母無試驗檢定
△寄宿舎完備

佛教保育協會

中野保母養成所

東京市中野區宮前町 電話中野五八七〇番

△今度附設ノ感應幼稚園ニテハ皇紀二千六百年記念事業トシテ
榮養給食ヲ實施セルニ付保母科生徒ニ於テモ給食並割烹ヲ正
科目トシテ課スルコトニ致シマシタ
△交通ハ省線新宿驛ヨリ五分デス

學則請求要三錢

一 修業年限 一ケ年(晝間實習、夜間授業)

一 特典 保姆無試験檢定 (學則請求要參錢)

一 出願期日 三月二十日迄

生徒募集

定員一五〇名

東京市小石川區表町八十八番地 (電話小石川二三七番)
市電市バス傳通院前下車

帝都教育會附屬教員保姆傳習所

所長 帝都教育會々々長 爵 松平賴壽

主幹 東京府女子師範學校長 加藤覺亮

誌友大募集

月刊
雜誌

家の教育

一月號目次

卷頭言……………	如山
一月の家庭常會	
幼稚園の生活(一)	A 幼稚園
幼兒の詩	
一月の保育事項	
生活と舞踊(一)	中條義雄
家庭訪問記……………	一記者
隣組の子供(一)	如山
童話・海のお婆さん	小川未明
幼稚園訪問記……………	一記者
母子子供の理科教室……………	柚木卯馬
物事にふれて波立つ幼兒の姿……………	世木幸子
泥にまみれた日の丸の旗……………	飯田敏子
世間雜話……………	
母の講座……………	砥上種樹
幼兒紙芝居……………	埼玉女師附屬幼稚園
家に於ける子供の體育……………	山西長太郎
教育相談(或る母との會話)	

二月號目次

卷頭言……………	平林廣人
家と隣組……………	
二月の家庭常會	
幼稚園の生活(四)	A 幼稚園
幼兒の詩と文	
二月の保育事項	
母と理科教室……………	柚木卯馬
教育子供のころ(三)	如山
創作子供達……………	如山
隣組の子供達(一)	小川未明
童話・春の月……………	如山
「母と子」觀察の導き方……………	栗山重
母性講座 明るい生活……………	砥上種樹
獨乙の母……………	芦屋瑞世
家の歌壇 漁村曙……………	松原謙敬
幼兒へ植ゑ付ける音感……………	世木幸子
幼兒の炭焼き遊び……………	飯田敏子
新春の貴き響き……………	
新刊紹介……………	小池長
編輯後記……………	花崎佐平
	淺田素雄
	武田雪夫
	内山憲堂
	天野恭作

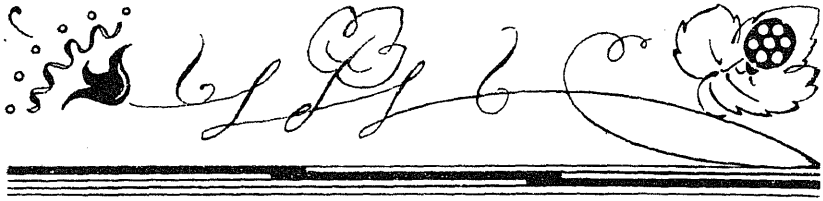
見本
贈呈

御希望の方は往復ハガキにて
御申込次第現品見本贈呈す

一部金拾錢
(郵税共)
一年分
金壹圓也

發行所 東京神田區橋本一丁目四番館 教育會館 八番

家の教育社



號二第 育保の兒幼 卷一十四第

——(次 目)——

國民幼稚園の名に於て(二)	倉橋惣三(一)
國民學校の實施を前にして	武藤光太郎(二)
兒童研究法講義(七)	松本金壽(八)
年中行事と保育	蒔田ソヨ(三)
毎日の保育問題	上澤謙二(六)
二月の保育	及川ふみ(三)
人形芝居偶感	のばら(二六)
豊田英雄先生御慰會に列して	倉橋惣三(二六)
笛と太鼓の保姆養成所	岸邊福雄(三)
第八回全國幼稚園關係者大會委員建議	(元)
第八回全國幼稚園關係者大會協議題報告	(四)
各地保育會の活動 富山縣保育協會概況	佐倉シゲ(四)
幼兒の母	(四)
幼兒の衛生(二)	萩原兼文(五)
保育實習科新卒業者	(六)

幼兒唱歌募集

— フレーベル賞による懸賞募集 —

先年株式會社フレーベル館高市社長より同館創業三十周年記念として、保育資金一千五百圓を全國保育界に對して提供せられ、その使途につき本會に委託せられましたことは度々本誌上に御報告申上げた通りであります。よつて本會はそのため特に實行委員諸氏を御委嘱し、協議の上、童話童謡手技等の懸賞募集を行ひ來り、いづれも好成績を擧げましたことも御承知頂いてゐるご存じます。今回は更に募集範圍を擴大して、幼稚園の方々の外、小學校教育御關係の方々にも御應募を乞ふことゝしました。廣く多數の優秀作品を得たいと期待して居ります。左の規定により盛に御應募下さるやう願ひます。

募集規定

應募作は幼兒にうたはせるに適するものたること。(適當なるものには曲譜を附す)

主題、内容、長短は隨意。

幼稚園、託兒所保姆諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

應募篇數任意。

原稿紙にペン書のこと。

應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)幼兒唱歌募集掛宛のこと。

締切 昭和十六年二月末日

發表 昭和十六年五月一日日本會發行の「幼兒の教育」誌上。

入選作は本誌に掲載し、賞狀及賞金を贈呈します。

フレイベル賞

一等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

審査 (五十音順)

及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏

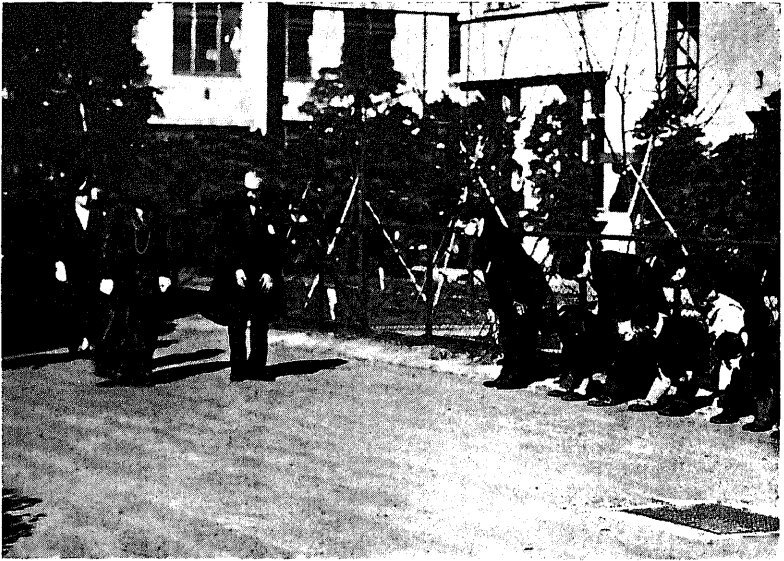
原稿は一切返却しません。

尙御不明の點は往復はがきで本會幼兒唱歌募集掛宛お問合せ下さい。

昭和十六年二月

東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會



皇后陛下 昭和十五年十二月三日東京女子高等師範學校へ
行啓あらせられ、附屬幼稚園へ通御の御途次、奉拜の戦歿
軍人遺児達に對し忝くも御會釋を給ふ。當日の記事本誌前
月號に謹記

國民幼稚園の名に於て

國民幼稚園の中心主義 (一)

倉橋惣三

一月の週報第二三號に斯う書いてある。「なぜ小學校が國民學校に改められるかと言へば、國民學校で行はるべき教育が、一、國民全體が必ず受くべき教育であること。一、その内容が國民生活に須要なものであること。一、その目的が國民の基礎的鍊成に存してゐること。等によるのであるが、また小學校といへば、何さなく弱小な氣がし、鍊視されるばかりでなく専ら上級學校への準備を行ふ學校であるやうな感じを起させ、小學校が完成教育であることを忘却させる傾向があることも國民學校を改稱される理由である」。これをあさの方から見ていくと、就學前教育は徹底的に完成教育でないし、さうまでも可愛らしいのであるから、幼稚園の名でいい。そのために幼児が年長兒童より弱小に感じられるからして輕視する淺薄者もあるまい。次にその目的であるが、それは明かに「國民の基礎的鍊成の基礎に存してゐるのであるから、學校の上に、國民を冠すると同様に、幼稚園の上に國民を冠して何んの異議もある筈がない。實際、就學前幼児期の保育施設は、傳統的にも時局的にもいろいろの方角からの必要觀に出發させられてゐるが、歸著するところは國民教育のための外の何ものでもあり得ない。従來そこに自覺が徹してゐない點があつたら速にその誤りを正すべきのみである。その次は教育内容であるが、未だ普通教育ではないから、生活に須要なるものとしての實質的知識技能を内容とするのではない。しかし、幼児期に於て成育もされ鍊磨もされる生活態度、生活活力が國民生活に於て、必須中の必須であることは論を俟たない。殊に國民學校の教科科目の本旨が、知識技能そのものでなくして、國民としての生活の充實にあるのであるから、それを基礎づけるものとして、幼児期の鍊成が國民生活に須要なるものでなくて何んであらう。換言すれば、幼児教育も「皇國之道ニ則ル」教育そのものなのである。

則ち、國民幼稚園の中心主義は、國民學校の中心主義と全く同一である。たゞ、國民學校に就て言はれてゐる處の「國民全體が必ず受くべき教育」といふことだけは、現状に於て相違があり、國民幼稚園が國民學校と未だ同一でない一點である。がしかし、主張さし目標としてそこを期待してゐるのみならず、國民全體が受くべき教育であるといふことこそ、幼稚園を國民幼稚園たらしめる信念なのである。

之れを要するに、國民全體のための幼稚園、それも國民鍊成の基礎機關たることを第一義とする幼稚園。これが、國民幼稚園の名に於て、われらの思考してゐる幼児保育機關である。

國民學校の實施を前にして

富士見小學校長
同 幼稚園長

武藤光太郎

待望の國民學校、全國初等教育者の一大關心事である國民學校の實施期も追々目睫の間に逼つて來たので、何れの學校に於てもそれ〴〵熱心な研究を周到な企劃に専念されつつあるを信するが、此點に就ては國民學校姉妹學園である幼稚園に於ても同様のことを思ふ。

兎に角今回の國民學校案は初等教育に於ける劃期的な革新案であり、教育界の新體制でもあるから、私共第一線に立つ教員や保姆としては奮然起つて、此新制度の體認者となり躬行者となるの覺悟がなければならぬと思ふ。申す迄もなく如何なる立派な案も萬全を期した計畫も機構も、結局は私共實際家の手に依つて實施するのであるから、吾々の心構を熱心力みに一切の期待が懸けられて居る事に想到する時、此の制度を生かすも殺すも全く私共の雙肩にあると言はねばならぬ。斯様に考へて参ります。實施に先立つて第一に取り上げたい問題は教師自身の事である。

人生觀の立直し

ご申すご大變仰々しい言葉であるが、今日迄の知識階級

とも言はるる人々の頭は深かれ淺かれ廣かれ狹かれ多かれ少なかれ、歐米の思想や哲學の上に建設された思想であり文化であり生活であつたと思ふ。就中我教育界は如何に彼等歐米の主張を無雜作に攝取したか、大正から昭和に互つての教育説の簇出當時を回想するご彼のブツデやリンデの人格主義を高調したり、ケルシエンシユタイナーの勞作教育を持嚙したり、自由教育に隨喜の涙を流したり、ダルトンの新奇を追つたり、眞に賑はしたものであつた。その中には所謂教育の大家なごも相當リーダーになつて居られた様である。そして遂最近までそれ等の流れを汲み、それ等の思潮を基礎として經營された新教育なるものも存在して居つたが、それ等も底を叩くご大方はバタ臭い教育であつたと思ふ。

要するに最近までの教育は、歐米哲學に根ざした人間學又は人間の教育學の上に抽象的な一般論を振擧して來たものが多いのだから、今回の國民學校制度の實施を契期として、今日迄の教育を清算して純然たる日本人の思想感情

意欲行動に立脚した、言はば一本のスフも交らない、皇國の道に則つた人生觀の樹立を私は望ましく思ふのである。

案を素直に受け入れたい

皇國民としての人生觀が全國の教員や保姆に確立すれば、新制度は一度の講習で國民學校の精神が把握されるに信ずるが、ここに注意したい點は素直に取り入れて欲しい事である。ご申すのは今日迄の習癖で物事を素直に攝取受收する修練が、我教育界の人々には出來得ないからである。勿論靜思し審問し辯明し盡して、採長補短の道を講ずることは必要ではあるが、徒らに批評し批判に時を費やし、素直に受入れる我量に乏しかつた教員生活から考へて、先づ從順に新制度を迎へて欲しいのである。

既に國民學校案に對し兎角の批判を聴くが私は誠に遺憾千萬に思ふ。勿論私共實務家から觀れば多少の缺陷はないでもない。斯ふもありたいと思ふ部面はあるが、國體に發して國體に歸一する教育の最高理念は皇國本來の教育軌道であつた筈である。それが今日迄の教育は教育勅語の御精神に則るなごご看板だけは掲げて來たが、實體の教育は歐米の模倣教育であつたのだ。之が形態的にも實體的にも日本自身の手によつて立派な母胎である國體から誕生したのであるから、小問題を捕へて批判がましいことは嚴禁したい。若し多少の缺陷ありごすれば、そこは實際家だ、お互

の取扱の上で缺を補ふて案の大精神を生かし、日本教育の建設に精進すること教育者たるものの任務でなければならぬ。況んや既に出來上つた案であるから、ごごまでも之を完璧完全なものとして之に隨喜隨順して、素直に受入れる態度であつて欲しいのである。

案の特性を掴む

新制度を生かすには案の特質性格を究めて早く之を把握することである。ご申して私は今この紙面で國民學校の特質を詳述する違はないが、素直に之を迎へれば案の精神は水の低きに流れる様に、求めに應じて素直に這入つて來るので、自ら其の特質も掴めることご信ずるが、ここに其特質を掴むに根本ごなる示唆的方向ごも言ふ可き點を申すならば、一切を最高理念へ歸一する性格が中軸ごなつて居ることである。而してその理念は國體の本義を顯揚し、之を擁護し、之を強化擴充し、之を生々發展せしむるご同時に、大和の精神を以て國體の中心たる皇運を扶翼し奉る忠良なる國民の育成にあるのである。

隨つてこの歸一性が統合的一體觀を生み、一體觀は全一的活動の實踐性を強調し、實踐性は生活即應の教育ごなり、生活に即するが故に實際的であり具體的であらねばならぬご言つた特性が、自然に色濃く盛られて來た。

更に修練が強化され、健體ご情操ご職域奉公ごが重視さ

れて来たことも、要は國家隆昌の根元を培ふ皇運扶翼への歸一性に誕生するものであると信ずる。然も之等の性格的方向は既に吾等の先祖が傳承し實行し來たつた道であり、大和民族の生活姿態でもあつたのだから、言はず新體制が億兆一心を説き、臣道充塞を強化し、職域奉公の復古的精神の振勵を目指して居ると同様に、國民學校も我國固有の教育の姿に復古したものと云つても宜敷いと思ふ。

斯うした氣持で案を調べ研究の歩を進むるならば、國民學校の特質を立派に擱み得ると思ふ。

幼稚園の使命

何日の時代に於ても幼児の教育を疎かにしてはならないが、今の時代の如く切實に幼児教育の重要性を萬天下の人々に強調されつつある時代は又さ無からうと私は考へてゐる。

ところが其必要性を説かれる割合に、國家に於ても社會に於ても教育界に於ても家庭に於ても、それ等の強調を主張に伴ふ程の施設と心構の乏しきを遺憾に思ふ。そこで私は國民學校の誕生を機會に、幼稚園の劃期的な發展を企圖して萬天下の識者に訴へ、之が重要性を如實に實踐に移されんことを切望して止まないものであると同時に、教育の内容に於ても今日迄の文化的羅列主義の教育から脱脚して、國民學校の精神に則り國體に對する敬虔なる心情を養

ふことに重點を置き、日常生活に於ける正しい習慣を修練すると共に、丈夫な體の子供を育てる點に努力することが大切であると思ふ。そして團體生活の基礎訓練を漸次養つて、國民學校入學の身體的精神的の準備とする。勿論準備のための教育ではないから、教科の指導なきに餘り意を用ゆる必要ない。要は家庭生活や幼稚園の生活を通して明るい性格と健康な體を養つてやれば幼稚園の目的は達せられると考へるが、何んと言つても幼稚園は家庭教育の基礎の上に經營せねばならないから、子供等の家庭生活の實相を擱み、其の缺を補ふ施設と指導に留意し、更に社會面から、幼児の心身を害ふであらう一切の弊害を除去する使命もあると思ふ。要するに幼稚園の教育は家庭と學園との同行であり連帶であり、共同教育であると言つた考へで賡々することに肝心である。何んとなれば幼児の生活は大部分家庭の生活であり、彼等の靈肉は家庭を苗床として母胎として生長するからである。

そこで園長や保姆は幼稚園独自の教育を確立することに、現代に於ける家庭教育の長短を研究し、家庭をして最も立派な賤の道場たらしむる指導を講ずると共に、家庭の缺を充塞する幼稚園の施設を考へて、よい日本の子供としての基礎工作に遺漏なきを期すべきである。

家庭への要望

國民學校は皇國の道に則つてよい皇國臣民を育成することを主眼とするものであるから、今後の家庭教育に於ても此の精神が一層徹底しなければならぬ。左様に考へて來る時、一段父兄に要望したい點は、子供は我が子であると同時に國家の子供であると言ふ意識を深く持つて頂きたいことである。即ち家の寶であると同時に國家の寶であることの認識が大切である。此の見地に立つて我が子の教育を見直すならば、そこから新たな教育觀が生れ、然も其の教育は必然的に國民學校の精神と軌を同じふすることと思ふ。今迄の一般家庭に於ては子供を主觀的に眺めた様である。之が子供中心となり我子中心の躰に墮し、その結果放漫な自由な我儘な子供に育てたり、又子供は親の子であるから親の意志で育てる言つた頑固な獨善に落入つたりしたのであるが、子供は國家の寶である言つた考へになれば自らそこに客觀的な教育の規範が必要となつて來て、今回の皇國道に即應する國家の最高規範が、家庭教育に不可缺な問題となつて來る。次に要求したいことは教育の効果を近きに期待してはならぬと言ふことである。近代教育は餘りに目標を近きに求め過ぎた感がある。之がために子供を巧知に走らせ模擬に流れしめ、甚しきは我子の教育を營利事業に資本を投ずる如く考へる父兄さへ生じた。即ち歐米教育の利益本位な利己的な教育に墮せしめた傾向を馴

致した。一言に申せば立身出世主義を幼児の中から鼓舞強要して、大人物になる子供も、教育の目標を近きに求めたため小才士や小懶口な小人物にして終つた憾がある。私は此の點を世の父兄達によく考へて貰ひたい、幼児から餘り賢い子供を目指したり立身出世の教育をする、小さく完成した人間にして終ふ恐れが充分にあることを認識して頂きたい。

此の點に就ては幼稚園の經營でも充分注意を要すると思ふ。父兄の智識欲の旺盛な方に迎合して、幼稚園に入園した効果を早く父兄に知つて貰ふために幼稚園の根本的使命を忘れて、御本を讀ませたり、むづかしい話やニュースを聞かせたり、物を數えさしたりして懶口者を養成することに骨折る學園もないではない。之等は今回の幼稚園の精神は非常に開きのある教育である。幼稚園ではどこまでも健康な子供を育てる點に注意し國民が情操を醇化して「ユツタリ」にした子供らしさの豊かな幼児を躰けることが主眼であることに、父兄も充分御理解と御協力を頂きたいと思ふ、序でお願いしたいことは、幼児の教育の最も適任者は父兄自身であると言ふ自覺を持つて頂きたいことである。

之は靜かに考へれば誰でも氣の付くことであるが實際は仲々さうでない。學園に入園する幼稚園委せになつたり、

託兒所に入れるは託兒所委せになつたりする。託兒所の場合は趣きを異にするが、それにしても託兒すれば保母の責任でもある様に考へることは飛んでもない間違である。こゝを充分承知すべきであり、又その認識を與へる可きである。何んぞ申しても家庭の教育は父兄が中心であり、慈愛の中に團欒しつつ物事に即して臨機應變な指導が出来るので、具案的計畫的ではないが子供に取つては一切體驗的であり、それに學園より社會性にも濃厚であるので、直接間接に社會的訓練をも無意識の間に行はれると言つた様に、父兄の一舉一動が子女の生きた模範となるのであるから、世の父兄は天下の教育者は自分であると言ふ自覺を是非持つて頂きたい。

社會國家への要求

幼兒教育の立場から私は社會人に或は要路の方々に此際積極的に要望したい。そして之は吾々幼兒教育に關係する者の當然の主張であり要求でもあると信するからである。

世界の情勢は何れの國に於ても人的資源を渴望して止まない。産業界に經濟界に思想界に國防に科學に人材を求むる聲は世界共通の聲である。戰爭の勝敗の如きも極言すれば人口の多少で決せられる。人口の量と質、之が國家隆昌の根源であるを申しても過言ではない。斯う思ふ時、幼兒教育の重要さは單に家庭の父母や教師や保母に委せて置く

譯には行かない。子供の有る人も無い人も、否や子女のない社會人は一層「あれは他人の子だ」なご見過ごして來た今迄の考へを是正して頂きたい。子供は國家の寶である。子供の無い家庭に於ては當然此の國家の共有である寶を眞の寶たらしむるために充分なる關心を持たねばならぬ。

子供のある父兄でも、一度社會人として町に電車に公園に、他人の子供を觀る時の態度は餘りに冷やかでなかつたか？粗末に取扱ひ過ぎはしなかつたか？此の點を社會人として深く反省して頂きたい。我國に於ける幼兒教育に關する施設、對策の貧困さは、要路の方々の手落もあらうが、國家の寶である幼兒に對する社會人の無關心が與かつて今日の狀態に置かして居るを考へる。託兒所の問題にしても、勞働力の少ない時、社會國家のために勞務に従事する人々の子弟を、社會として國家として充分なる施設をして上げることば當然である。之を單なる社會政策の見地から中譯に設置する程度では、社會として國家としても責任を盡したるは言はないと思ふ。私は國民學校の實施に伴つて、幼稚園の重要性が國家的に認められたことを心から喜ばしく思ふと同時に、此際此時竿頭一步を進めて幼兒教育に對する識者の猛省を喚起し、近き將來に於ては幼稚園を國民學校に併設して、幼兒教育の萬全を期する用意と對策の促進を願つて止まない次第である。

兒童研究法講義 (七)

第四高等學校教授 松 本 金 壽

幼兒の言語

—

發達を身體の方面と精神の方面とに分けますならば、歩行動作は身體の方面における發達即ち成長の目印ですし、言葉の理解と表現とは精神の方面における發達即ち叡智の始まりだと云ひませう。人間が動物と異なる點は言葉と道具の使用とにあると云はれますが、この意味から云つても、歩行と言語とは本當に人間のものと云ふことが出来ます。子供を育てた経験のある人にまつて、自分の子供が歩き始めた時と言葉を云ひ始めた時とが最も印象的だと云はれますのも、恐らくは、この二つが最も人間的な身近さを感じしめるからだと思はれます。身體動作の發達について

ては前號で大體述べましたから、今度は精神發達の代表である言葉の研究法を述べることになります。

兒童の言語表現は生後一年目頃から始まるのが普通ですが、それから數年間の發達には實に目覺しいものがあります。一年目頃には僅か一語か二語といつたやうな辿々しい片言混りが、幼兒時代の數年間に一通りの言葉使ひが出来上るさいふことは、それが餘りにも自明なことであるだけに、誠に驚異すべき問題だと云はれませう。私共が外國語の學習に費した年限と結果とを比較されたならば、このことは一層明白になるでせう。

尤も言葉が人間の生涯にまつはる不斷の文化財である限り、言葉の研究さいふものは、何も幼兒時代に限つたわけではありませんが、發達さいふ點からみると、幼兒時代が

一番大切です。進化論で有名なダーウィンは「全人を中心に
 おいて我々が成し遂げたことの中で、初めて言葉を使ふこ
 とを覺えたさいふこ程、大きく且つ驚くべきものはない」

と述べてゐますが、しかも此の大事業が大體において二歳
 から四歳までの三年間に略々完成される次第です。我が國
 の兒童語研究に先鞭をつけた久保良英博士は、幼兒時代に
 おける目覺しい言葉の發達を花に譬へて、二歳は蕾の時期、
 三歳は半開の時期、四歳は満開の時期だと述べられてゐま
 すが、發音の點でも言葉の組合せの點でも、五歳以上にな
 れば自由自在だと云つてよいでせう。身體動作の方向にお
 いても、幼兒時代の發達には目覺しいものがありますが、
 一人前の充分ささいふ點からみるに、言葉には到底及びま
 せん。

大體以上のやうなわけで、幼兒の言葉は昔から色々の人
 人に興味を持たれ、實際に觀察したり實驗したりした研究
 は、こゝでも數へきれぬほど澤山あります。大正以後、今日ま
 でに發表された我が國の研究だけでも五十以上に及んでゐ
 ます。こんなに澤山の研究があるのに拘らず、まだく足
 らぬ部分が澤山あります。まして皆さんが保育の實際に常
 つて當面されるやうな具體的な問題に對しては、此等の諸
 研究が、すぐそのまゝ役立つか否うかは頗る疑はしいと思
 ひます。結局は皆さんが各自各様の立場から、獨自の解決

に進まれる必要が起りませう。そんな時の御參考までに、
 次に研究法の大要を述べることに致します。

幼兒の言語發達に關する主な結果だけでしたならば、私が以前
 に發表した次の論文を御參照下さい。

兒童の言語(岩波講座「教育科學」)

兒童語の表現(明治書院「國語科學講座」)

二

言葉の働きさいふものは、自分の表現が相手に理解され
 ることによつて初めて成立つものですから、理解と表現と
 は言葉の働きの二要素とも考へられます。そんなに美しい
 表現でも相手に理解されなかつたら何もなりません。殊に
 幼兒に對しては、このことが一層大切な意味を持つてゐま
 す。熟練した保育者であるか否うかは、幼兒に對する物言
 ひ振りでも察せられるわけです。言葉の働きとしての理解
 と表現とは、上のやうな意味で大切なだけではなく、幼兒
 の言葉の發達に對しても、極めて重要な役割を演じてゐる
 次第です。さいふのは、幼兒の言葉は周囲の大人達の言
 葉、さいふよりは大人達から話しかけられる言葉の理解か
 ら出發するわけですから、具體的でよく分るやうな言葉を
 與へることに、言葉の發達を促す重要な條件と云ふことが
 出來ます。理解は表現の母胎ださいふのは、斯うした事實
 を指してゐるわけです。それ故、幼兒の言語の研究法も理

解と表現との二つに分けて述べることに致します。

三

幼児がどの程度の言語理解力を持つてゐるかをそのことを研究する方法は、個々の語の意味の理解を文に表現された意味の理解に分けることが出来ます。

先づ個々の語の意味の理解力を調べる方法としては、指示法と定義法を擧げることが出来ます。兩方法とも幼児に對しては一人々々について即ち個人的に行ふのが普通ですが、定義法は團體的にも行ふことが出来ます。どちらか云ふと、指示法は年齢の低い方に、定義法は比較的に年齢の高い方に行ふのが本筋です。

指示法といふのは、一定の事物や繪畫等の中から、實驗者が呼んだ名前のものを幼児が正しく指示できるか否うかを驗すことによつて、個々の語の意味の理解力を推定する方法です。よく一般の家庭で行はれてゐる「これ何」式の命名法の逆の遣口です。ピネー・シモンの智能検査法にも三歳兒の問題として、幼兒自身の鼻、眼、口、耳等を指示させる課題が含まれてゐますが、指示させる對象としては廣く色々のものを選ぶことが出来るでせう。玩具でも動物でも日用品でも、とにかく幼兒の經驗範圍のものならば何でもよいわけです。單に具體的な物ばかりでなく、「長い——短い」「重い——軽い」「このやうな抽象的な概念關

係にまで及ぼすことが出来、應用自在な便利な方法ですが、正邪善惡を云つたやうな直觀的でない言葉の意味を調べるここが出来ないので。これが此の方法の缺點でせう。

勿論この方法によつて研究する場合には、問ひのし方や指示のさせ方にも相當の熟練を要しますし、又繪なごを用ひます際には明瞭なものでなければなりません。粗雑な通り一遍の調査だけでは、精確な結果が期待されないことは云ふまでもありません。一方において、相手は倦き易い幼兒だといふことを絶えず念頭に置くと共に、他方において、暗示を避ける意味での嚴格さが保たれなければならぬと思ひます。

定義法は讀んで字の如く、色々の語の意味を幼兒に質ねて答へさせる方法です。この方法はあらゆる種類の言葉に適用できるわけですが、答への内容の整理が大變です。勿論、幼兒に求める定義内容は、私共大人に求めるやうな論理的な概念規定ではありません。大抵の場合は、語の意味の云ひ換へ又は説明を云つた程度のものでありますが、それにしても大體の整理目標を立て、置かないと始末がつきません。然し、この方法を用ひた研究は可なり澤山ありますし、ピネー・シモンの智能検査法の中にも幾つかの雛形が出てゐますから、前例にはここ缺かぬと思はれます。

指示法と定義法とは、以上述べましたやうに、特定の言

葉の理解力を調べるのが本筋ですが、特別の言葉の意味だけでなく、廣く一般の言葉つまり語彙調査に應用されてゐます。語彙調査は謂はゞ言葉の財産調べのやうなもので、

こゝにも澤山の研究が出てゐますが、調べ方は目錄法と見本法の二通りです。目錄法は、幼児が表現する凡ての語彙を記録蒐集する方法ですから、一番確實な方法と云ふことが出来ませんが、これにも一定の限度があります。幼児が自由に活動するやうになるに實行が難しくなりますから、精二三歳までとせう。見本法は、一定の事物や繪畫等を與へてその名前を言はせたり、又一定の語彙を與へてその意味や用法を質ねるものですから、指示法や定義法の應用も見られます。見本法にも無論一長一短があります。割合に高い年齢まで行ひ得ることは一つの長所ですが、見本の選擇が中々難しいこと、調査に非常な日數がかかること、つまり骨折が並大抵でないこと、調査に缺點だとも云へませう。しかも見事この困難を乗り越えて、新入學兒童の語彙調査を完成した貴重な勞作が、我が國に三つも發表されてゐることは特筆大書すべき事柄と云はなくてはなりません。即ち、第一は大正七年度施行の成城小學校兒童、第二は大正十一年度施行の千葉縣鳴濱小學校兒童、第三は昭和九年度施行の岡山縣師範附屬小學校兒童の理解語彙の調査で、皆單行本として發表されてゐます。

澤柳政太郎、田中末廣、長田新「兒童語彙の研究」
千葉縣鳴濱小學校職員研究會「新入學兒童語彙の調査」
岡山縣師範學校附屬小學校「兒童の語彙と教育」

四

次に文の意味の理解力についての研究法に移りませう。元來、文は語の母胎であるばかりでなく、一切の言語的交渉の基礎をなすものです。それですから、文の意味の理解といふことは、あらゆる場合に自明のこととして前提されてゐる事柄で、特に取り立てゝその理解力を問題とするのは、大抵それを通して推理力とか綜合力とかを見る場合が多いやうです。簡單に要約すると、次の三通りになります。第一は、言語による命令を行動の形で實行させる方法、第二は、特定の數語を與へて、それを文の形に完成させる方法、第三は特定の文を與へてその要點を答へさせる方法です。

この三通りの方法は、斯う第一第二を書きますと何か厭しい感じを與へるかも知れませんが、實際は日常生活に始終行はれてゐる事柄なのです。子供を使に走らせることは第一の方法の具體化ですし、使ひ先の返事を報告させるのは第三の方法に外なりません。強ひて云へば、第二の方法つまり文章完成法だけが特別仕立てのものに云ひ得るでせう。然し、それだからと云つて此等の研究法が無價値なの

ではありません。それどころか、話方や聴方の問題は、幼稚園時代から躰の訓練をして置くことが必要でせう。文の理解力そのものでなく、理解の態度が理解にふさはしい表現さ云つたやうな問題の方が、より重要になつてきました。文さいふさ、すぐ文章が思ひ出されるやうに、これまでは文字の面の研究が主でしたから、話方や聴方の問題は今後の研究として、大いに皆さんの注意を喚起し度いと思つてゐます。

最後に言語の表現についての研究法を簡単に述べて置きます。幼児の言語表現を研究するには兒童日記による系統的觀察法が最上の方法でせう。兒童語研究の聖書とも云はれるシュテルンの研究も此の方法によつてゐますし、我が國でなされた久保、高峰、城戸、大脇等の諸氏の研究法も同様な方法に據つてゐます。二歳から三歳、三歳から四歳と年々の發達を調べるとは、さうしても此の方法に頼らなければなりません。その中の細い問題は質問を行つて答へさせたり、自由聯想が制限聯想かによつて發表させたりする實驗的研究法が必要でせう。幼児の發音の發達なき云ふ簡単な問題も、自然のまゝの表現だけに頼らないで、色々な語音の組合つてゐるものを云はせたりしてみるこゝによつて、つまり前に述べた條件分析法を用ゐるこゝによつて、一層精確な結果が期待されるでせう。私が行つ

た幼児の發音調査の方法を一例として掲げて置きます。

初めに五十音の各々を含む物の名を云はせてみて、發音の歪みの多い語音系列の大體を調べ、次に其等の語音だけを語頭、語中、語尾に含ませた物の名を云はせたり、歪みの多い語音同志を組合せて云はせたりして調べてみるさ、サ行音、ザ行音、ラ行音、ハ行音等が、日本の幼児にさつて難しい語音系列ださ云ふこゝが知られるばかりでなく、サ行音はタ行音に、ラ行音はヤ行音又はワ行音に、ハ行音はア行音に轉化される傾向があるこゝが分ります。そしてこんな傾向も五歳までの問題で、六歳になるさ殆ど完全になつて居り、残された問題はアクセントやリズム等の問題、つまり話方の技術ださ云ふこゝが明白になります。發音の正しささ語彙の豊富さ、語彙の豊富ささ、智能の高低等の關係も興味ある問題の一つでせう。さにか、小學校入學時まで、四八〇〇から五一〇〇もの語彙を理解し、二二〇〇以上の語彙を表現するやうになる幼児の言語發達は、幼稚園時代の教育に俟つ所が非常に大きいのです。それだけに理解の面でも表現の面でも、研究される問題は無限にあるこゝさ思はれます。標準日本語の確立は、これからの幼児教育の大きな使命の一つですから、旺盛な御研究を切望して止みません。

年中行事と保育

月島幼稚園保母 蒔田ソヨ

新體制の聲は今や巷に氾濫し、既に産れ出た新たな政治體制に對して、人皆は、各々その持場に於て翼賛の誠を致さん誓つてゐるのであります。

我執を捨て、己の持場を守る。誰れの言葉であつたか、之こそ今の現在の私たちの新體制に處すべきゆるぎない態度ではないでせうか。日本國民鍊成の教育の第一段階を受持つ私たち、教育の焦點に對して深いく、反省と批判を加へつゝ國家の理想に向つてたゞへ足ごりは小さくとも、新體制に翼賛するの矜持を大にしたいものであります。

新年度からはいよゝゝ國民學校案も具體的に實現致します折から、國民幼稚園としての幼稚園の保育を反省し如何にあるべきかを考へてみる又、無益な事ではないと存じます。

明治時代に濫觴し未だ發達の過程にあるとも見るべき、我が國幼稚園の保育主題が季節と行事によつて推行されてゐるさいふことは、生活主義保育として幼児の身邊にその題材を求めた當然の歸結ではありますが、何さいふ當を得

た主題であり、優れた保育課程であることせう。

我が日本民族の間に行はれてゐる數々の行事は、悠久な歴史と共に年々、歳々之を繰り返すことによつて、その内容は時代と共に變遷し、陶冶されて來たものでありませうが、永い歴史を背景とする行事、盛んに行はれる行事こそは最もよくその社會や、民族や、國家の個性、思想、信仰を具體的に表象してゐるものであると考へられます。つまり皇國の道を端的に表すもの之こそ行事ではないかと思ひます。

日本人である私たちは祖先の歩いて來た道程を又、現在生活してゐる郷土國家を、行事を繰り返すことによつて、より強く意識し愛するの念を禁じ得ないのであります。

以上考へます時に現代日本の歴史的使命の前にかゝる年中行事が如何に重大な役割をなすか言を俟たないのであります。この意味に於て年中行事こそは最も壯重に、且つ最も印象的に行はるべきでありませう。

殊に幼稚園にあつては、あらゆる保育項目の動員によつ

て體驗し印象つけることに依つて、國家社會の行事を行ふ意志を正しく理解させ、以つて生涯の思想や行動の基をばつきり築きたいと思ひます。否、幼児の現在の生活態度を皇國民として、之によつてはつきり訓練づけたいと思ひます。

それには私たちの行事に對する深い認識と指導精神を正確に把握することが、最も大切なことでありませう。

保育主題として取り入れられてゐる行事は申すまでもなく、幼児を對象とし幼稚園を中心とした極一般的なものでありまして、大體之を四つに分けて考へることが出来るこ存じます。

國家的儀式、日本古來の傳統によつて行はれて來たものの、社會の施設強化を目的とするもの、それに幼稚園の行事とあります。

國家的儀式は申すまでもなく宮中に於て行はせられる行事で、祝祭日がそれでありませう。我等臣民の宗家である皇室の祭祀を共に奉齋し、皇室のよろこびを以つて臣家の祝となす、誠に意義ある行事であります。古來より我が國は個人と家庭、家庭と國家との關係は密接不離なものでありまして、畏くも 聖上陛下には君民一體の實をお舉げ遊ばされるを御理想とせられ、臣又僥倖を國家と共にするを、よろこびましたのでありまして、ここにこそ我が國民精神の

精華を見るこが出来悠久、千六百年の歴史を誇り得る、又宜なる哉であります。

その中四大節は何處の幼稚園でも拜賀式を舉行致しますが、飽までも壯重に嚴肅にありたいもので、小學校に附屬した幼稚園でありませう、單獨で行ふ場合も小學校低學年と一緒に、又勅語奉讀を行はれない幼稚園單獨のお式に比べへない、又勅語奉讀を行はれない幼稚園單獨のお式に比べませう、小學校と合同の場合の方がはるかに嚴肅に禮法も正しく行はれるやうであります。唯一つ、いさゝか勝手の異なる如く考へられてゐる幼稚園參加のために、式場の集團禮法がたさへわづかでも、徹底を期し得なかつたならばこの御迷惑を考へるこ、今一つは園長先生の式辭の直接對象となり得ないこであります。然したさへ式辭が難しくこも、奉祝歌が終りまで歌へなくこも、あの尊嚴な式場の空氣の中に一時なりこも體を置いて以つてその寮園氣の中に皇國民としての感激を得たならばそれで好いのではないでせうか。否、それよりもつこ望ましいこは幼稚園のみの式に御眞影が奉拜出來、お勅語奉讀が行はれさうして可愛い感激に満ちたお式が行はれたならさんなに良いこでせう。式日唱歌については種々論のある所でありませうが、式場での唱歌は一番だけ位は文部省制定のものを歌はせてよいと思ひます。幼児たちは母や又兄弟たちによつ

て多少は聞き覚えて居り、一種の國民歌として普及してゐるのでありますから、式後、各部屋それらの年齢に即して、平易に今日の式の由來を話し幼稚園の式日唱歌等を歌つて終りまする、或は式場を出てそのまゝ近くの神社に参拜する等、皇室の尊嚴、皇國民としての感謝の念を養ふと共に、正しい集團訓練をかうした時にしつかり植ふけたいを存じます。國民奉祝の時間の默禱等も同様であります。

その他祭日は休日になつてゐますので其の前日に祭日のお話をし、前後は祭日に因んだ保育事項によつて保育を進展させて行く事は何處の幼稚園でも同じことを存じます。唯ここに出来るならば幼児に直接體驗せしめたい、例へば靖國神社の例祭であつたならばその前後に行はれる園外保育を、こゝに選んでその神殿に類づかせる。神嘗祭が近づけば近郊の田園に秋の遠足をした折の觀察をこゝに導き、私たち日常の食物に對する感謝を持參のお辨當の中に味はせる等、飽まで實際子供の經驗によつて日本國民としての自覺を感謝を子供に體得させたいのであります。

この祭日に對して家底ではあまり關心を持たないやうであります、子供たちを通じてその祭日の意義を知らせるべく務めたいものです。それには祭日に對する優しい唱歌を作成していただくのも方法でせう。或は幼稚園便り等に

分り易く書くことも必要でありませう。

第二の日本古來の傳統によつて行はれる行事は郷土特有の環境より必然的に發展し行はれてきたもので、古くは朝野の儀式として風俗として盛んであつたものが今では國民的行事となつたもの、即ち五節句、お月見、お盆、お彼岸、節分等かうした中に入るべきでせうか。

之等の祭りは最もよく民族の傳統、感情を象徴してゐると思ひます。祖先の祀つた人形を、子々孫々之を祀つてはその祖先を偲ぶ。月を仰いで祖先の美を感得し、靈を祀つてはその靈を語り得るの信仰、我々祖先の美を美し、眞を眞とする處に民族本來の道を體認し得るのではないでせうか。之等の行事を主題とする保育は最も活潑に各保育項目に發展して、幼児の情操を高め、民族性を豊にしてゐるのであります。お雛様を飾らない幼稚園もなく、七夕様の傳説を知らない保育者もある如く、家庭の眞隨に立つ幼稚園の教育の一大特色はこのあたりに存するのではないかとさへ考へられる程です。

幼稚園は之等の行事を行ふことによつて家庭のリーダーとして、正しい行事の實踐により民族性の昂揚に努むべきであります。

次に社會教化を目的とするもの、之は今日の所謂一億一心目的の貫徹に努むべく行はれるものであつて、國家或は

國民に大なる刺戟を與へた事件の記念日、即ち陸海軍記念日、震災記念日、滿洲國獨立記念日及び承認記念日、日支事變記念日、教育勅語下賜記念日等、或は興亞奉公日、防火デー、體育デー、蟲齒豫防デー、交通道德デー、防空演習その他であります。

之等は幼兒を保育室内にのみ止めず、街頭にまで進出して社會の一單位として、社會の秩序に對して鍛鍊させるべきであります。勿論保育項目の活用も實際的體驗を基として、以つて皇國の一員としての自覺と信念を誇らせるべきであります。殊にかうした行事は單なるその場のみの訓練に止まらず、躡として日々無意の行動をも律する所までの根氣が大切であります。

その他幼稚園を主體とする行事であります。入園式修了式、創立記念日、運動會、遠足會、身體検査體重測定、唱歌遊戯會等、教育主體の行ふ行事にて又國家社會の行事とその趣意に於て異なる處のあるべき筈がありません。

斯く考へます時に日常の國民生活の感激が昂揚し、盛り上つたものが行事となつて表れるのではないかと、少なくも心理的にはさうあるべきではないかと思ひます。つまり日常保育の集約が行事となるのだとも解釋が出来るかと思ひます。

以上年中行事を通じて主として躡訓練について考へて

みたのでありますが、かゝる既定の行事の他に或は滿洲國皇帝陛下の御來朝、或は花子さんのお父様の出征、或は日獨伊三國同盟等々、の季節的人事や自然に對してその保育主題は實に豊富に又その取材も自由であります。私たちは單なる時流に銜ひ際物的な保育に陥らないやう、ハッキリした信念の下に環境に即した適切な主題を選ぶことが先づ大切な事ではないでせうか。今一つは即ち既成品的な手技や、或は唱歌によつて徒らに幼兒を混迷刺戟することなく、眞に明朗な皇國民を育成したいものであります。

「國民幼稚園」

昨年夏の文部省講習會で、倉橋主幹が「國民幼稚園」といふ言葉を用ゐてから、諸方面の注意を引いてゐますが、本號から引つゞきその解説を本誌に掲げます。尚ほ講習の講演速記は抜刷にして各方面に配布せられ、その要約論文が文部省發行の「文部時報」十一月號に續載せられてゐます。又同題目の下に、杉並保育聯盟、靜岡縣保育會、茨城縣保育會、神田區保育會等で講演が行はれ、更に本月十五日には千葉縣保育會で、十六日には名古屋の大乗報恩會保育講演會で、同一題目の講演が行はれる筈です。幼稚園の國民教育的充實と、國民教育的普及こそ急務です。

毎日の保育問題 (四)

上澤 謙 二

七 はじめてのスキップ

『よあ、Tちやん』

聲をかけるミ、Tちやんがミび出した。

これには聲をかけた先生がはつこした。だから子供の中の或る者が『あゝ』といつたのも無理はない。

Tちやんはけつしてスキップをしない子供だった。お仕事もよくする、自由遊びにも活動する、團體のキマリにもよく従ふ、歌もうたふ、運動もする。けれどもスキップだけはさうしてもしなかつた。

それが今、順々にスキップ廻りがはじまつて、Tちやんの番になつたので、到底だめかと思つたが、それでも——ミ、試しに聲をかけるミ、ミび出したのである。

はつこした先生は、又はつこ目を見張つた。割合よくや

る、リズムにも相當乗つてゐる、それで案外だったからである。

Tちやんは用心深い、寧ろ内氣な子供であつた。だからスキップも、恐らく人の前で相當やれるといふ自信がつくまではやらなかつたのであらう。それがさうなつたので、やりたくなつてきた。さうして遂に今日の實行ミなつたのであらう。

先生はさう思つて、ひそかにうなづいた。

然し何ミいつても訓練が足りない。みんなの前を一回して二回目の中頃になるミ、調子が崩れてきた、見る／＼チグハグがひびくくなる。

急にTちやんの顔がゆがんだと思ふミ、兩眼に涙がキラツミ光つた。

先生は又もやはつこした。

「きつこ泣き出すだらう」こ思つたからである。「泣き出してやめたら——この最初の経験が苦いものこなつて、今までよりもスキップに對する憎憎と嫌悪が烈しくなり、折角の奮發がかへつて逆な結果を齎らすやうになるだらうこ思つたからである。

それで「これはさうかしてやり遂げさせなくてはならない」こ思ひ立つた。「それならさうするか？」

見よ、もうTちゃんの頬にはほろ／＼こ涙が傳はりはじめたではないか。

先生は自分からさび出して、Tちゃんの手を取つて『さあ、先生さいつしよにやりませう』こ足並をそろへてスキップしようこ思つて、腰を浮かした。

その時である。

子供達のうちの二三人があつ、Tちゃん、泣き出し……いひひかけた。

先生は更にはつこした。

こんな言葉がTちゃんの耳にはいつたら、忽ちその場へ突立つて、大聲を揚げてわめき出すこは、鏡にかけて見るよりも明かだからである。

いひをはらぬうちにその言葉を打ち消さうこして、先生はいきなり聲をかけた。「いきなり聲をかけた」こいふより

も「おのづからつるりこ言葉がすべり出た」こいふ方が、眞に近いかも知れぬ。

『さあ、みんなお手々をたゞいて……』

さうして先生自身たゞきはじめるこ、みなそれに倣つた。勿論いひ出した子供も、口を結んでいつしよにたゞいた。

この一同の拍手が、この場合、Tちゃんに取つて非常な奨励になつたのである。

涙を頬に流しながらも、両手を腰に置いたまゝスキップをつづけて、さう／＼泣聲一つ立てず、終りのところまで廻つてきて、席へ戻つたのである。

「あゝ、これがよかつたのだ」こ、先生はほつこ胸をなせおろした氣持である。

初め考へたやうに、その時さび出して、いつしよに手を組んでやるのも一つの方法にちがひない。それはかういふやうな場合に、普通に行はれるこころである。けれども、それは要するに加勢である、助け舟である。だから、そこまでは自發的に獨立的に進んできたものが、手を組んだ瞬間から他動的、依存的に豹變してしまふのである。満心満身の力を籠めてさび出したものが、御厄介になつて、面倒をかけて、ひきづられてやつこおしまひになるこいふわけである。決して理想的こはいへまい。

或は『Tちゃんしつかり』こか『Tちゃんは強いね』こか

『Iちちゃん、えらい、おしまひまでやるよ』とか、聲援を與へることも、一つの方法にちがひない。けれどもそれは美辭、讚辭、賞辭に乗せて、その勢ひで引張つてゆくことである。この種の言辭の常として多くは過大に失し誇大に流れる。それだけに調子づかせ、いゝ氣にならせ、あまへるやうな氣持にさへならせぬことも限らない。それだけに他に依り、他に頼む氣持が働らく。それは言葉に限られて、手や足にまで及ばないので、前の方法よりは自發的、獨立的の要素が多いが、まだ他動的、依存的の臭味を脱しきらない。

ところが拍手は音であり響きであつて、第一の方法のやうに一定の運動を、又第二の方法のやうに一定の觀念を、他から持つていつて與へるのではない。こゝに生まれるものは高響による精神的な感應に外ならない。無形であり無内容であるだけそれだけ純粹なものである。純粹なだけそれだけ、それによつて起される動機を自發的に獨立的にするものである。

かくて自發的獨立的に始められたIちちゃんのスキップは、中途で停頓したにも拘らず、自發的獨立的な經過を取つて終るこゝができたのである。

この最初の經驗を、更にうれしい、快いものにするために、先生はIちちゃんを大に褒めてやらうと思つた。褒める

のはしたそのこゝに近い方がよい。實際に遠ざかると、印象も稀薄になるので従て感銘も薄い、従て効果も薄い。殊に幼児に於てさうであることは、一般に謂はれるところ。先生はすぐにそばへ寄らうとしたが、又もやはつゝ立ちま

つた。見よ、Iちちゃんは聲こそ出さね、まだしやくり上げてゐる、涙が流れ出してゐる。心中の激動が猶收まりきらないのである。生まれて初めての經驗を、かゝる曲折を通じてやつゝ突破した。努力は大變なものだ。だからかゝる有様なのは當然である。

もし今、刺戟を與へるならば——言葉も勿論刺戟である——それがたさへ賞讚であるにしても、直に激動の波にひびいて渦巻を起して、恐らくはワツゝ泣き出すであらう。それで先生はわざゝ、次の子供を名ざして、スキップをはじめさせた。

場内はもこの氣分に還つて、ピヤノのリズムミ足のひゞきは、さも面白げに僭調する。やがてIちちゃんのそばへ行つた先生は、しづかに頭を撫でゝいつた。

『Iちちゃん、よくおしまひまでやつたね。強かつたね』
Iちちゃんはだまつて下を向いたが、ニッコリした。

八 めてたい大團圓になるまで

Iちちゃんが遊んでゐたボールをかたづけた。けれどもそ

れを棚の上に置いた。

『そこへ置くのぢやないでせう、お抽斗へ入れるのでせう』と、先生が注意しても、すぐに『はい』といへない例の癖が出て、だまつて自分の席へかへつてしまつた。

『なぜ、先生のいふことを聞かないんですか』と咎めて『きうしてもちやんこしまはなければいけません』といつて片づけさせてやらう。先生の權威を示さなければならぬ。

先生は先づさう思つた。

それでもわるくはない。けれどもそれはもう度々やつた方法だ。何かほかにないか考へる。

『ごらんなさい、こゝへしまふ方がいゝでせう。みんなここへしまふでせう』と、抽斗へ入れて見せて『分かつた？』

これからこの抽斗へ入れますね』とたしかめてやらう。先生の親切を示してやることにしよう。

それでもわるくはない。けれどもそれはまだ弱いやうな物足りないやうな感じなので、考へなほす、ふつ考へつた。

『さうだこれをやらう』ときめた。

それで子供達みんなに話しかける。

『ね、Iちやんがあすこへボールをしまつたけれど、あすこでいいから』

先生とIちやんとの個人間の關係を、みんなとの團體的關

係に移すのである。

『あそこではいけません』と、大勢が口々にいふ。

『それではこゝへしまつたらいいでせう』と、先生がみんなに聞く。

『ここではIちやんは全く引込んでしまふ。さうして問題はみんなの問題』となつたのである。

『お抽斗へしまふの』と、大勢が答へる。

『さうね、あなたが先生におしまひなさいといはれたり、お抽斗へしまひますね』

さういつた先生は、この點を深く強く印象するために、わざと二人程の子供に聞く。

『Sちやんも、Rちやんも、お抽斗へしまふ？』

『ええ』と答がある。

『お抽斗へしまひます』と答がある。

『この點を深く強く印象する』とは、誰に向かつてさうするのかがいへば、申すまでもない、Iちやんに向かつてである。だから、わざと聞いたSちやんは、Iちやんのすぐ隣りにすわつてゐる子供、Rちやんは一人置いてその隣りにすわつてゐる子供である。

Iちやんはさすがにうつむいてゐる。間接ながら自分の行動が團體的批判を受け、又具體的な模範を二人のお友達によつて示されて、應へたらしい。

さうして取つた先生は、問題をいちやんのの上に轉じた。

『いちやんもお抽斗へしまひますね、しまふでせう』

けれどもいちやんはうつむいたまゝで應じさうもない。

思つたより手ごわい。それで先生は問題を團體へ返して、

今度はみんなさいちやんの關係にする。

『みんな、いちやんを見てごらん、立つていつてボールを

抽斗へしまひますよ、きつこ——ほうら——』

しかし『きつこ』でも『ほうら』でもない、いちやんは依然

としてうつむいてゐる。

さうして、このままで置くわけにはゆかぬ、さいつて突

放してしまふわけにもゆかぬ、それで問題を發展させる。

「發展させる」さういふ意味は、いちやんに對する間接の程度

を一段狭めて、直接に近くするこゝである。その意味でみ

んなに聞く。

『あなたがたね、先生が「ボールを抽斗へおしまひなさい、

さいつても、きかない子供があつたら、その子供、すき?』

『きらひ』『いやな子』なごご、答がある。

『さうしたら、その子供をさうしたらいゝでせう』

すぐに答は出ない、みんなちよつこ考へる。が、やがで

ひごりがいひ出す。

『その子供、吐ります』

するさ、つゞいてあちこちからいふ。

『しまはせませう』お母さまにいひつけます』なごご。

『このお部屋から出してしまひます』さういふ言葉もさび出

してくる。するさつゞいて『表へ出しちやつてもう入れな

い』さういふ言葉を添加する子供もある。

餘りきつくなつて、個人的な非難攻撃に嵩じてはなら

ぬ。そこで先生は方向を變へる。

『ちやあね、その子供がね、きかないのをやめて、先生の

いふ通りにボールをしまつたら、さうしませう』

子供達は又ちよつこ考へたが、やがて口々にいひ出す。

『よくいふことをきいたねつていつてやります』『ほめて

あげます』『いつしよに遊びます』なごご。

『さういふ子供、あなたがた、すき?』

たゞみかけて聞く。

『すき』『よい子供』なごご答がある。

その問答の間ぢのう、先生はそれさなくいちやんの様子

に注意した。みんなが『いやな子』と斷定して『お部屋から

出してしまひます』さういふ説さへ提出された時は、びつくり

したやうに顔を擧げてあちこち見廻したが、又うつむい

てしまつた。次で場景一變。『よい子』さういふ斷定があつて

『ほめてあげます』さういふ意見が提出されるさ、再び顔を擧げ

てあちこち見廻した。が、さつきさのびつくりしたやうなお

づづした様子に引きかへ、今度はおちついた、そして何か

キリツトしたやうな氣合さへたどよつてみるこ見られた。

『Iちやんはきつこよい子になります、抽斗へ……』

先生がこゝまでいつてくるこ、もうIちやんは立上がつつた。サツサミ柵のこころへいつて、ボールを取るこ、抽斗をあけて、しづかにその中へ入れて、ちやんこしめて、席へ戻つてきた。

先生はこゝろしながらみんなにいふ。

『まあ、みんな、Iちやんのここ見てちやうだい。よい子になつたでせうか。』

『なりました』こ、異口同音にいふ。

『よい子になつたから、こつしてあげませうね』こ聞く。

『ほめてあげます』こ、異口同音にいふ。

『ちやあ、ほめてあげませう』

先生はIちやんを立たせた。みんなの拍手が一齊に起つた。パチく、パチく！

Iちやんはうれしさ恥かしさがこんがらかつたやうな表情をして、しかしちやんこ立つて拍手を受けた。

かくて或は吐つて、或はたしなめて終るべかりしこの事件は、關係を個人から團體に移すここによつて、一方は觀察しつゝ批判しつゝ、判断しつゝ、他方は内省しつゝ、考慮しつゝ改善しつゝ、相互に益し益されつゝ、自然に又自發的に、めでたい大團圓に達したのである。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學セシムベキ保育實習科生徒ヲ募集ス
其要項左ノ如シ

昭和十六年一月 東京女子高等師範學校

一、募集人員 凡ソ二十四名

二、出願期限 二月一日ヨリ同二十八日マデ

三、學 資 學資ハ總テ自費トシ 授業料年額金
五十五圓ヲ徵集ス

四、選抜試験 入學志願者ニ對シテ學科試験身體
検査人物考査ヲ行フ

1、學科試験 國語(解釋、作文)、理科(植物)、
圖畫(自在畫)、音樂(唱歌)

2、期日 本年三月四日、五日ノ二日間

3、場所 東京女子高等師範學校

(附記)出願の手續其他詳細の事項は之を記載せる印刷物を用意せるに付其送付を希望する者は麥錢郵券を貼附し宛名を記載せる封筒を添へ本校教務課に請求すべし

二 月 の 保 育

及 川 ふ み

双六、カルタ、羽子つきで遊んだお正月も過ぎて、寒さはまだ烈しいが、暦の上に春が訪づれて来た。

東京では毎年二月には雪が時々降る。幾センチさいふ程に積る事は少くても、この時だけより幼児に實際の雪の観察がさせられないから柔い紙の上や、布の上に静かに落した雪を、蟲眼鏡などで雪の結晶を見せるこよい。澤山に降り積れば、雪だるま、雪うさぎを作つたり、雪つり、雪合戦なごみ幼児を思ふ存分よろこばせたいものである。

子供は風の子、晴れた日には凧あげ、羽子つきも外遊びも忘れてはならないのであるが、寒氣烈しい朝の一時、曇つた日なごみは止むを得ず室内遊びをよぎなくされるこまも

多い。お話や唱歌遊戯の機会も多くし、手技なごみも繼續したものを作つたり、作つた手技作品で幼児たちが自ら遊べる材料なき考へて、室内遊びに倦怠を感じさせない様に保育計畫を立案させなければならない。

尙二月には節分、紀元節、三月節句の支度なごみ年中行事についての保育材料も次々にあるのであるから適當に配列して幼児の遊びを充實させたい。

第一週 二月一日

土

興亞奉公日 明治神宮遙拜式

お話 節分の話

お面とお豆作り

お面は古い繪本、ボールの空箱なきを利用して、おかめさ鬼さつくる。眼の位置だけ先生の方できめておくが、外の部分は幼児の自由にかゝせるこよい。

お豆は紙粘土で作るこよいが、紙粘土にするのが間に合はない時には、新聞紙を小さく丸めて豆の形に作るこよい。

第二週 二月三日——二月八日

月

唱歌遊戯 豆まき

豆まき 土曜日につくつた紙粘土のお豆をおかめ、鬼

のお面をかぶつて部屋々々に、福は内、鬼は外で豆まきをして遊ぶ。

箱の家の町

一月中かゝつて作つた各幼児の箱の家で、保育室の一隅に町を作る。

この二月は、ならべられた町にある、国旗掲揚場、市電、バス、トラック、タクシー、荷車、リヤカー、通行人、ポスト、交番、町の掲示板なきに幼児と共に数へあげて、一人の幼児に一つ、或は二つを各分擔して作る事にする。製作するものについては、希望者を募つてもよいし、又抽籤の方法をこつてもよい。又市電、バス、タクシー、通行人なき數個或は數十あつてよいものもあるから、保育室の黒板に作るものゝ品がきに、製作する幼児の名なき書きしるしておいて仕事の分擔をはつきりさせるこよい。はじめの計畫は大量にするが、毎日の幼児の實際の仕事は除々にして、分量少く、丁寧にする事にする。二月一ぱいに出来なければ三月に續いてもよいわけであるから、急いで粗末に作らない様にする。段々に築きあげる仕事の愉快さを、この際充分に幼児に保姆さが味はふのも幼稚園手技の一つの大きな收穫である。

火

自由畫

箱の町

數人の幼児たちの指導の爲に、比較的幼児自身でするところの多い自由畫を組み合せ、箱の町の市電、バスなきの製作を始める事にする。

水

お話

ヌリエ 模様

木

箱の町つゞき

紙粘土づくり

金

觀察 梅の花

自由畫 梅の花

土

唱歌遊戯

切り紙 梅の花

第三週 二月十日——十五日

月

お話 神武天皇

自由畫 神武天皇

紙粘土 つくり

新聞紙を細かくむしつて、お雛様の支度を始める。

火

紀元節祝賀式

水

唱歌遊戯

箱の町つゞき

木

唱歌遊戯 春よこい

織紙

古端書二枚を縦横にする。普通の織紙よりも端書の紙の質がかたいから細かいものは幼児にはむづかしいから一センチより一センチ半位の太さにする。はじめは一行市松の簡単なもので、縦の色と横の色を別の色に、クレヨンで塗つておく。紙の質が厚い爲に、縦の方は横より少し餘裕をつけて長めにする。この一行市松一つを作るのにも、紙に色を塗る。紙を細く切るなごま今まで直ぐに織紙そのものが作り始めたものを、材料から作るごまふ事になる。一度で全部終らなくても二回に互つて作つてもよい。

金

自由畫

箱の町

土

お話

唱歌 遊戯

第四週 二月十七日——二月二十二日

月

お話

お雛様作り

紙粘土でお雛様一對を作る。頭は例によつて銀杏の實を使ふ。大きさは端書の上に一對のせられる位のものを作る。

火

唱歌 おひな様

箱の町つゞき

水

自由畫

織紙 古端書にて

木

唱歌遊戯 おひな様

箱の町つゞき

金

お話 爆弾三勇士

ヌリエ

土

人形芝居 爆弾三勇士

第五週 二月十四日—二十八日

月

唱歌遊戯 おひな様

お雛様 紙粘土のお雛様の色塗り

先週の月曜日に作った粘土の下塗り白のカゼインを塗る。

火

お話

お雛様の色塗り

顔は銀杏で小さいので幼児自身で畫くのは一寸むづかしいから先生が畫いておく。

その他のところは幼児に色をぬらせて、胡粉で模様を畫かせる。一點つづつぼつ／＼とした模様でもよいし、又點々を五つづつにして梅の模様にしてもよいければ、又點々を三つづつにして松の模様にしてもよい。

水

唱歌遊戯 おひな様

お雛様の臺

古端書の三方を二センチ宛の高さにして、其の二センチ

木

自由畫

お雛様作りつゞき

紙粘土のお雛様の色塗りは数人づつ交代でする事にする。

金

お話

お雛様(古端書にて)

別圖(寶物大)

古端書二枚を別圖の様に圖取りして、クレヨンにて、幼児の好む色に塗らせる。顔の部分はなるべく端書の白い部分を使ふと都合がよいから白い部分をさつて頭に貼り付けるこよい。

袴は後の背の部分で、一センチ幅の切り込み通りにくちひがひ兩端を内側にする。これは平面にするのに都合がよい爲にするのであるが、平にする必要がない場合は糊づけにしてしまふこよい。男雛、女雛を紙粘土の雛同様に端書の臺の上にのせる。

人形芝居偶感

東京市麴町の ばら

私共が日々の仕事に對して、絶へず反省し再検討して見るこいふ事がないと、うつかり自分のからには入りこんでしまつて、不思議も起らなければ一向に進歩もしない。適當な指導者を得て研究する事は勿論結論な事と思ふが、

又、お互同志で話し合ふだけでも、「三人寄れば文珠の智恵」何等か得る所があると思ふ。私共の同一區内の幼稚園による小さなグループで行つた人形芝居實演會も、實は「三人寄れば文珠の智恵」でお互に研究し合ふ集りであつたが、其の結果に於ては相當教へられる點があつた様に思ふ。簡單に感じた事を御報告して皆様の御指導を願ふ事とする。

脚本は、從來脚本として出來てゐる物をさけて自作とする事(但しお話ししてある物を脚色するは差支へなし)

人形も出來るだけ自作を用ひる事

こいふ約束、當日になるまで皆思ひこく、祕藏の人形まで意の脚本を持つて集り實演を行つた。

さんごの首輪、桃太郎、白ちやんの鈴、案山子の勳章、小兎ミライオン の出し物であつた。さて其の結果感じ

た點は、

○舞臺について

現在多く用ひられて居る舞臺は約三十人から四十人の幼児、即ち一組位の幼児數が最も適當で、一五〇乃至二〇〇人も幼児に見せ様とするには少し小さ過ぎる事はないか。演出者にもよる事と思ふが、大勢に見せる場合は後の子供は相當聞きづらいので何か擴聲する方法をこつたらよいと思ふ。

幕は、二つつきたいと思ふ。場をくぎる時も終りの時もいつも同じ幕でなしに背景を取替へたりする爲の場合は軽い感じの物にして、變化をつけた方がよいと思ふ。

照明は、出來たら装置した方がすつと効果的である。


○背景について

今まで多く紙に書いた繪が用ひられて居たが、一寸おごつて布にした方が音が立たなくてよい。

細かく寫生風に書いた物より、大きく簡單に印象的に書いた方が効果的である。たまへば秋の田の所を現すにし

ても、細かく田舎の田の景色を書くより、實つた稻を五六本大きく印象的に現すさいつた方がはつきりしてよいと思つた。

場合によつては黒い無地の布を用ひただけのもよい。

登場する人形さの色彩的調和を考へる事が必要だと思つた。又背景は無地にしておいて、セツトを置いて感じを出すのも大變効果的である。此の場合中間にセツトを置く舞臺に奥行を見せて面白いと思つた。たゞへば「小兎ミライオン」の場面で、背景は黒い無地、前景右手に兎の家があり、後に森の木立をセツトで現し其の中間にやはり森の木のセツトを置く。木の間は切り抜いてすかしてあるので小兎の白ちやんが歸つて行く時等、すぐ横に退場せず後方へ行つて此の中間の背景の後を通つて退場して行くさ、いかにも「段々歸つて行くなア」こいふ事を思はせて、面白いと思つた。

背景の取替へ方

いつも幕をしめてゴサ／＼幕合の時間をまつて居るさ幼児の興味をそぐ場合があるので簡單にサツト取替へる時もある。

布の背景の上部四五個所に薄い紙をつけ、これを餌で止めて置いて、舞臺の中から引いて落す方法。

又、カーテンの様な装置にして置いて紐を引いて段々に

變へる方法。これは序々に變へたい場合に非常に効果的であると思ふ。たゞへば今まで夜だつたのが段々朝になるさいふ様な時、段々に夜の背景がしぼられて朝の明るい景色が現れるので、今までの様に幕が開いたら朝の景色になつて居たさいふのより、面白いと思つた。

○人形について

なるべく大きく、大まかな物を、さ希望する。其の特徴はやゝ鼓張した方がよい。天狗さいへば鼻が非常に高いさいふ様に：：人形の衣裳は、背景及同時に登場する他の人形さの色彩關係を考へて作りたいと思ふ。黒い背景に黒い熊が出来たものでははつきりしない。

人形の作り方は、箱、布、新聞粘上等で色々作られて居るが、昨年やはり私達の此のグループで、松葉先生に教へていただいた新聞紙で作る方法は、非常に簡單で面白いので一寸此處に御紹介しておく。

先づ端書を横にして中指に巻き自分の指の太さに丸めて糊づけして置く。

次に新聞紙一枚を普通に二つに折り、更に縦に三つ折にするさ長さ四〇浬幅七浬位の大きさになる。これを前の端書の棒に糊でくる／＼巻きつける。これで一番の元形が出来たので、今度は作らうとする物によつて、高くする所には新聞を細かく切つてのせて、(以下四三頁へ)

豊田英雄女史御慰安會に列して

併せて、貴重な幼稚園史資料の數々――

倉 橋 惣 三

豊田英雄女史が、我國最初の幼稚園保姆として、國寶的存在であられることは言ふまでもないが、その御慰安の會が、昨年十二月八日、水戸市教育會館に於て、茨城縣保育會總會と共に催された。私は、總會の講師として

に接することが出来、嬰孩の御様子を見ることの出来たのは、私の近來の喜ばしい日であつた。

その日は何んといつても十二月の天候が氣づかはれた

招かれたを好機として、その慰安會に列して、久し振りで老女史に拜晤するの幸を得た。昭和三年水戸のお宅にお邪魔して幼稚園史資料につき教を乞ひ、十一月特にお茶の水の附屬幼稚園にお迎へして、幼稚園懷舊談話會を催し、一同で敬意を表して以來、(「幼兒の教育」第二十八卷十一、十二月號所載)親しく拜晤することを、心ならずも忘つてゐた。但し、常に人を介して御消息は詳かにし、御健勝のこゝを伺つて居り、殊に、この間、ブルガリヤ國からの需めに應じて、日本幼稚園の功勞者として女史の近影を送つた時にも、お變りなき御健康を喜んだのであるが、かうして、親しく温容

御慰安會に於ける豊田女史と筆者



が、思ひ設けぬ程の温暖な好晴に恵まれた。會の始まる十時、自動車でお宅から會場へお迎へしたのであるが、女史は令孫豊田健彦氏夫人に手をさらされて、會場正面の腕掛椅子につかれた。私の席が女史に隣りして設けられてあつたのは、恐縮のこころも思つたが、お蔭で女史のおそばに最も近く居るこころを得た。

女史は茶ミゼンのお召に、立葵の紋をつけた黒い被布を重ねてゐられた。おぐしは決して少くない白髪を後ろに束ねて、鬘甲の小櫛でさめてゐられた。さうして、さつかも大椅子一ぱいに掛け倚つてゐられる體格は、實に堂々たるものであり、殊にお顔の色のつやゝかさは、九十六歳の御老齡さは思へない。主催者や來賓からの、女史に對する御慰安の辭につき、記念品として美しい大座蒲團が贈呈された後、女史のお話に移つたが、お耳が遠いだけで、充分張りのある聲で、記憶もしつかり、表現もしつかり、長い時間いろ／＼の懷想を語られた。令人唱歌の話が出て、「風車」から「いかばかり」、「ゆきやあられ」、つづいては「むろのこころであそびなば」なごゝ記憶を辿られつゝ、「てふてふ／＼」は加藤きん子さんが作つたのでしたよ。あの人はさういふ才能のある人でした。早くなくなつて惜しい人でした等の追想を繰りかへされながら、「てふてふ」を聲高に歌ひ出したりされた。その譜もたしかに、殊に、あの歌の

感情さいつたやうなものが、極めて新鮮に、お元氣な笑顔に蘇り上つたには、私をして、若い豊田保姆を目の前に躍動せしめた程であつた。女史も「けふは昔に返つたようだ」ミ繰りかへし言つてゐられた。それから、松野クラ、さん（開園當時の幼稚園に主席保姆として、フレール式保育法を指導した人）のこころをおきゝしたら、「あれはドイツの人ですが、自分の子も連れて来て、手をたゝきながら、日本語で唱歌をうたつた。記憶のいゝ人でした。娘さんはおふみさん。松野憫さん（夫君）がなくなられてから、ドイツへ歸られて、その後消息が無かつた。さうされたか。立たれる時には、さこ迄だか送つて行つたが、さこ迄じやつたか忘れました。」なご言はれたりした。古い／＼ながら情の濃かなお話である。しかも、お話はもつこ古い時にさかのぼつて、誰れか、「先生は烈公さまの御前で薙刀を使つて御覽に入れられたさうですが」ミお尋ねしたら、「あれは極く若い時のこころで、御殿のお庭で、たゞほんの型をつかつただけでした。殿様はおみすの内で御覽になりました。」ミ答へられた。その他いろ／＼のお話も次第に口をついて出るさいふ調子で、二時間近くの時間を大層機嫌よく過され、「大層古い昔にかへつたようだ」ミ、笑ひながら言はれたりした。そして十二時前、會の人がお伴して自動車でお宅へお送りされたが、歸宅の後も樂しかつたミ話してゐられたさいふ

こゝを健彦氏夫妻から聞き、お障りなくてよかつたと思つた。正直にいへば、あゝ數年で百歳といふ人の心身が、あゝもしつかりしてゐられることは、私には不思議な位である。その方が幼稚園開設當時の記憶をはつきり話されながら、私達が歴史といふ古い筐の中のこゝのやうにのみ思つてゐることを、實感的にすん／＼言はれる言葉を聞いては、失禮さ思ひながらも、お顔をまじ／＼見入つた程であつた。そして又思つた。私もまだ／＼若い。年齢じやあない。日本の幼稚園に身を置いてから何十年、相當に古顔さか先輩さかの部に入れられてゐるが、豊田女史の傍に立つては、日本幼稚園のほんの若造に過ぎない。殊に私のやうに、女史によつて礎石を置かれたといつていひお茶の水幼稚園を嗣いでゐるながら、ロクに築き上げ得てもゐない者としては、女史にお會ひする毎に、ひこりて恥入つてゐるのである。

○

豊田女史はしつかりした記憶をもつてゐられるばかりでなく、きちようめんの性質から、昔のものを丹念に保藏してゐられる。この日もそれを拜見したのであるが、先づ私の目を注がせたものは、「皇后宮御清覽順序」さいふ題の朱罫も、高雅な筆致の墨の色も燦々である、純楮和紙數枚の假綴りの手記であつた。私としては、つい五日前に、皇后

陛下の御巡覽を、附屬幼稚園に仰いだ感激が、まだそのままに胸にある時である。常々しても貴重なこの資料が、格別の電觸でも持つものややうに、手のふるうやうな思ひをさせたのである。

この手記には日附けがないが、野紙が東京女子師範學校のものであるから、その時代の行啓であることは確である。而して、女子師範學校時代(即ち女子高等師範學校と稱せられる以前)の行啓は、明治十年十一月二十七日と明治十四年五月二十四日の二回であつて、明治十四年の御巡覽は、その事項が記録にあり、この手記とは別である。殊にその時は、開誘室を組の名で呼んでゐるたから、この手記は、明治十年の行啓であることが疑ひない。

さて、その明治十年十一月二十七日は、東京女子師範學校附屬幼稚園の開園式の日である。附屬幼稚園の創設は、明治九年十一月十六日であつたが、内容の多少整ふを俟つて更めて開園式が擧げられたのである。當日は時の皇太后宮(英照皇太后)御同列で、皇后宮(照憲皇太后)の行啓があつたのであつて、幼稚園教育のために、皇后宮からも、皇太后宮からも御辭を賜ひ、實に我國幼兒保育の輝しき出發式であつたのである。その日の記事は、翌二十八日明治十年十一月の日々新聞にあつて、「……此の時文部大輔以下校長等校前に出でて迎ひ奉り校長先導して設けの御休息所へ

着御ならせ玉ふ。此所にて文部大輔及び校長は拜謁を仰せ付らる。夫より幼稚園に至らせ玉ひ開誘室及び遊嬉場に進御あり、夫よりまた御休憩所へ還らせたまふ、此の時本校の教員生徒は御座前に整列して敬禮す。畢て晝食を召し上られ再び幼稚園へ入らせ給ひ遊嬉室に進御なる、……記してある。それ等のこゝは、「日本幼稚園史」(三八頁―四二頁)にも採録して置いたが、その御巡覽事項が明らかでないこゝを、久しく遺憾としてゐたのである。それがその幼稚園へ、皇后陛下の行啓を仰いだ月、それも僅に數日を超えただけの日に、この事項を明らかにし得たのである。手帳を出して筆寫する私の手がふるふ思ひがした。

皇后宮御清覽順序

幼稚園開誘清覽順序

一 幼兒整列シテ門内ニ奉迎ス

皇后宮既ニ着御成ラセテ各組開誘室ニ入り御式畢ルヲ

待ツ

右畢ツテ 皇后宮

第一開誘室へ渡御

第一回 第五ノ形體建方及ビ問答

但シ渡御ノ際敷禮ス以下做之

亞ニ 第二開誘室へ渡御

第一回 博物畫解及ビ小話

亞ニ 第三開誘室

第一回 球ノ遊ビ小話

亞ニ 第一開誘室

第二回 縫畫及ビ體樣

但シ二回ヨリ敬禮ナシ、以下做之

亞ニ 第二開誘室

第二回 織紙

亞ニ 第三開誘室

第二回 鎖ノ連接

亞ニ 總員話説所ニ於テ唱歌

亞ニ 同ジク庭園ニ出テ遊戯

右畢ル

この第二回であるのは、御晝食後再度の御巡覽を意味するのであらうが、「二回ヨリ敬禮ナシ以下做之」にある意味に到つては、餘りの長しこさに、解説の言葉も知らないのである。

次に最も興味を惹いたのは、豊田女史が受けられた昔の辭令類である。それを順序づけて見るに、女史の傳記中の最も重要な點なるに共に、當時の教育界の狀況を示すに

ころが多い。

一 金三圓

發櫻女學校教師雇入以來教授方致勉強候趣相聞候ニ付
爲其賞標書下賜候事

明治八年五月七日

茨城 縣圍

豐田 芙雄

發櫻女學校教員 豐田 冬

小學小訓導試補申附候事

但月給金四圓助給候事

明治八年十一月二日

茨城 縣圍

辭職之儀願

發櫻女學校教員 豐田 芙雄
今般私儀少訓導試補拜命難有仕合ニ奉存候然處萬般未
熟其任ニ兼堪候間斷然御免相願度此段御聞濟可然偏ニ
奉懇願候也

明治八年十一月六日

豐田 芙雄 圍

豊田伴女
豊田冬
東京女子師範
學校校長 鹿入親
茲ニ付至急同於
出頭可致事
明治八年十二月

茨城縣

金三拾圓
豊田冬
本校創始以來
勉勵相勤候ニ付
市手當上ニ被下之

東皇師範學校
明治九年七月

四等訓導
豊田芙雄
幼穉園係母專
務可相心得事
但一月金貳圓増給
候事

東皇師範學校
明治九年十月三日

茨城縣權令中山信安殿

願之趣難屆聞候條勉勵致事

明治八年十一月九日

少訓導試補差免候事

明治八年十一月二十日

豐田伴母

茨城縣團

茨城縣

東京女子師範學校ニ於テ雇入相成候ニ付至急同所へ出頭可致事

明治八年十一月

茨城郡團

費田冬

東京女子師範學校助訓豐田英雄

鹿兒島縣幼稚園設立ノ為メ

縣令申出ニ趣有シ、付同縣

ハ可致出張候事、

但出張中勤務ノ儀、同縣ノ指示

ヲ遵フキ事

明治十二年一月廿四日

文部省

東京女子師範學校助訓
豐田英雄

幼稚園開設ニ付該事

業擔當申付一ヶ月金

五拾圓給與候事

明治十二年三月十三日

鹿兒島縣

金三拾圓

豐田冬

本校創始以來勉勵相勤候ニ付御手當トシテ被下之

明治九年七月

東京女子師範學校

四等訓導 豐田英雄

幼稚園保母專務可相心得事

但一ヶ月金貳圓増給候事

明治九年十月十二日

東京女子師範學校



東京女子師範學校助訓

豊田 英雄

鹿兒島縣幼稚園設立ノ爲縣令申出之趣有之ニ付同縣へ
可致出張候事

但出張中勤務之儀ハ同縣ノ指示ヲ受クベキ事

明治十二年一月二十四日

文 部 省

東京女子師範學校助訓

豊田 英雄

幼稚園開設ニ付該事業擔當申付一ヶ月金五拾圓給與候
事

明治十二年三月十三日

鹿兒島縣

女史は明治十二年二月(十六日)に送別會が開かれてゐる
東京を出發し、その使命を果して、明治十三年七月歸京、

再び、女子師範學校附屬幼稚園保姆としての現職
に復し、明治十四年の行啓を迎へられたのである、

斯う記し來つて、私の史興は止まるどころを知
らぬ程湧いて來るが、談が豊田女史のここからそ
れてゆきそうだから、此邊で筆を擱くことゝす
る。たゞ、筆を擱く前に、もう一つ是非記して置
かなければならぬものは、豊田女史のローマ時代
の洋装の寫眞である。今更さう申しては失禮かも
知れないが、なんさいふ麗人なのだらう。イタリ
ーに行かれたのは明治二十年から二十四年迄であ
つたから、四十三、四歳のお歳頃だと思ふが、眉
目の秀麗と共に、洋服洋帽のすつきりき身につい
てゐる加減、當時のインテリ振りが想ひやられ

る。今でも、家庭で曾孫を相手にされてゐる時なき時々フランスが飛び出すこ何ふのも、此のスマートなローマ仕込みでは、さこそそこを思はれる。又そのローマ時代、いつしよにローマ法皇に調せられたさいふ。時のドイツ大使若き西園寺公が、後に文部大臣として、宇都宮の高等女學校の爲に、特に女史をその教頭に薦めたのも、一時の著想ではなかつたに相違ないと思はれる。女史の保藏されてゐる古書翰の中には、「豊田英雄様楮右、公望」にして宇都宮の寓に宛てたものもある。

壽齡九十七歳。閑靜な水戸のお宅で、令孫健彦氏とその夫人との行き届いた孝養の中に、悠々たる朝夕を楽しんでゐられる女史の上にこの冬も暖かく、愈々加餐加齡せられることを、切に祈つて已まない。

張家口市日本幼稚園開設

大陸に活躍せる邦人第二世の保育は國策上重大使命を有す

待遇は外地第一位の稱あり

本俸は大體六、七十圓まで（人物に依る）

手當は本俸の十四割

住宅料本俸の三割

家族手當も四月より創設、賞與は大凡五十割

内外

保姆約五名採用

氣候は大連より稍々溫暖

交通 北京より七時間蒙疆の入口

首府所在地 人口は十五萬内日本人二萬

治安は部隊駐屯し確保

物價は内地の二倍乃至三倍

是非御發奮あらんことを切望す。御希望の方は編輯係宛て申出でられたし。

笛と太鼓の保姆養成所

—(回想の二)—

岸 邊 福 雄

× 明治三十八年に、高等科保姆養成所を、納戸町の例の住宅兼用の幼稚園内に創設しました。

所が、高等科と言ふ宣傳が、果して功を奏して、目白の女子大學の卒業生や、靜岡女子師範卒業生の方達が、九名集つて來た。養成期間は六ヶ月と言ふのである。

× 教育學は、東京府女子師範の佐藤憲治先生に、心理學は、高島平三郎先生に、彩色の原理は、只今の東京女子高等師範教授菅原教三先生に講じて戴いた。

菅原教授は、其當時、大學卒業早々のお若い美しい方であつた。今こそ長い髻を伸ばして、關羽のをぢさんの様に威儀嚴然たれども、僕の養成所の講師の時、實に水々し

いほぎの貴公子であつた。それも、懐かしい思ひ出である。

× 尙、珍學科は、笛を吹き太鼓を打つ、樂隊ごつこの稽古であつた。今日の諸方の女學校に採用されてゐる鼓笛隊である。

× 其講師が、近衛軍樂隊長さんだ。

一週に二度も、軍服の隊長が、稽古に來て下さつた熱心は、練習生一同が、いつも感激した。只だ感激はし感謝はしたが、一向上達はしなかつた。初は笛が六づかしかつたが、後には太鼓が六づかしかつた。成績は、終に見るべきものなしに及弟して、免狀には相當上達したやうに書いて渡した。

今日になつて見るに、あれもこれも皆んな笑草である。

× 保姆の養成所は、東京府教育會が、多田房之助氏の幼稚園で開いてゐる位で、あまりに保姆の志望者もなく、必要もなかつたのであつた。

× 全國の幼稚園數は僅に八百を稱されてゐたのであつた。

× 其頃のお茶の水の幼稚園主事は中村五六氏であつた。東基吉氏も關係されてゐた。尙和田實氏も、其頃加はられた。お茶の水幼稚園には天下の幼稚教育の權威が集つてゐられた。

× ここでは、何んさか言ふ、全國の保姆に對しての雑誌が發行されてゐた。

× 僕は、三十八年に『明治の家庭』と言ふ三十二頁の家庭教育本位の雑誌を、單獨で發行した。編輯長も發行人も發行者も、販賣も、配發も廣告取りも、只だ一人で働いた。幼稚園は無論朝から終はりまで、主任保姆であつた。

× 『明治の家庭』も、同時代に羽仁も子女史が編輯を引受けてゐられた内外出版協會の『家庭の友』が、家計を主

として賣り出してゐた。尙ほ名文を以て、母性を指導してゐた『家庭雑誌』と言ふのがあつた。堺枯泉氏の編輯であつた。

× 私の雑誌は、毎月最初は一萬部發行した。其内四千部を寶文館で賣つてくれたが、残り六千部は直接郵送した。

× 其帶封を、家内が、一日に二百枚平均に書いた。

× 此帶封毎日二百枚宛書く事は、容易ではなかつた。時には、あかんぼをお負つたまま書くのは、まだしも、時には園兒の特技を教へながら書いたり、庭でブランコや砂遊びをするのを見ながら書いた事もあつた。併し、大抵は、あかんぼを寝かせ付けてから書いた。

× 其拙早の筆が、其當時は間に合ひはしたが、終に惡筆になつて懇意な人様に出す手紙にすら、赤面する今日になつた。

× 此の雑誌で、幾らかの利潤はあつた。それが、幼稚園の經營力になつたのであつた。全く、自給自營の幼稚園であつた。

これを思ひ出すにつれ、夫妻共、健康そのものであつた事を感謝するのであります。全く夫婦幼稚園であつた。

× 私、東京に出ます時に、恩師田中勝之丞先生が、小學校員や保姆は、世間を視る眼界が狭い。幾ら友達同士で研究してゐても、其進歩其成績に見るべきものが乏しい。東京に出たら、偉らい先生や學者や政治家や、藝術家や宗教家や、思想家の間に混じて、黙々として高説佳談逸話等を聽聞せよ。と、諭された。

× 其の恩師の教訓に隨つて、各種の學者名士の間に入れて戴いたものの、あまりに、基礎知識のないのに恥かしさをさへ覚え勝ちであつた。

終に、お辨當持の役も勤まらないさまでに失望した。

× さあ、夫れからが、孤立無援の、ひこりぼつちの境遇に、自らを置いたのである。

× 繁華な廣小路は、皆様の後さへ追ふて歩けぬ、さ自覺するさ、夫婦連れで、裏の田圃路に出た。なる程人通りは少ない。道も畦路で足元も危ぶまない。

よし心得たさ、一さ足一さ足に力を入れて、急がずあせ

らず、踏みしめ踏みしめ歩らした。

× 進みの遅い事、龜のそれにも及ばない。半ば踏みしめた一足は、後にはさがらなかつた。往く手は遠い。兵糧は久しい。二十時代から、一生の事業として、自ら念願して創めはしたものの、幼稚園經營難は身にしてみて來た。

倦怠期は、將に來た。

友達は、上の學校を卒業して、年々共に榮進して往くのに引き代へ、私は、相變らず、田圃の畦路をさぼ／＼歩いてゐた。

× 常に、人里を離れてはいけないさ、自ら誠めてゐた。人里を離れては、やがての時期に遅れて終ふからである。

× 田圃路、人通りは少ないが、其の往く先には、小さいながらもタンポポも咲いてゐた。スミレも咲いてゐた。レンゲ草も咲いてゐた。畦の溝川には、鯉も鯛もゐなかつたが、目高やさげうは、頭を上げて話しかけて來た事もあつた。それが、倦怠期に陥つてゐた幼稚教育者を慰めもし、鞭撻もして呉れたのであつた。

自然は人を育てるか―感激の至りである。(二、五日)

第八回全國幼稚園關係者大會委員建議

大阪市立高臺幼稚園長長野隆義氏、京都市淳和幼稚園長八

木勇藏氏、神戸市末正幼稚園長安井八十二氏、大阪市立江戸

堀幼稚園長萬年孝成氏は、去る一月二十二日御上京、第八回全國幼稚園關係者大會に於ての建議案を文部省に建議せられました。その建議案を茲に再録いたします。(編輯部)

◎現下ノ時勢ニ鑑ミ幼稚園教育振

興策ヲ舉ゲ其筋ニ建議スルノ件

現行幼稚園令公布セラレテ實二十有五年、保育事業ノ發展著シキモノアルハ洵ニ慶賀スル所ナリ、然レドモ時勢ノ進運ニ伴ヒ尙改革刷新ヲ要スル點尠カラズ、茲ニ幼稚園ニ關スル教育審議會案ニ對シ、討議研究シテ具體的項目ヲ舉ゲ其ノ筋ニ要望セントス。

一、幼稚園ノ設置ニツイテ一層獎勵ヲ加フルト共ニ特別ノ

必要アル場合ハ簡單ナル幼稚園ノ施設ヲ認メルコト

1、幼稚園ノ設置ニツイテ一層獎勵ヲ加フル件

イ、文部省ニ幼稚園專任ノ指導機關ヲ置クコト

ロ、市町村ヲシテ市町村内ノ國民學校數ト同數ノ幼稚園ヲ設

置セシムルコト

ハ、各道府縣師範學校ニハ必ズ幼稚園ヲ附設スルコト

ニ、幼稚園ニ義務制ヲ敷キ學齡前一ケ年ハ必ズ保育ヲ受ケシムルコト

ホ、公私立幼稚園ニ對シ國庫補助ヲナスコト

ヘ、組合又ハ私人ニ對シ幼稚園令ニヨル幼稚園ノ設立方ヲ一

層獎勵スルコト

2、簡易ナル幼稚園ノ施設ヲ認ムル件

イ、簡易ナル幼稚園ト雖其ノ施設ハ幼稚園令施行規則第十九條各號ノ規定ヲ下ラザル程度ノモノタルコト

ロ、簡易ナル幼稚園ノ場合ハ園長、園主、職員ノ人格、教養、資格等ニ重キヲ置キ調査ノ上許可スルコト

二、幼兒ノ保育ニツイテハ特ニ其ノ保健並ニ躰ヲ重視シテ

之レガ刷新ヲ圖ルコト

1、保健ニ關スル件

イ、養護

△衛生設備ヲ十分ニシ養護上遺憾ナキヲ期スルコト

△專任ノ園醫並ニ衛生婦ヲ置クコト

△身體検査ヲ勵行シテ其ノ活用ヲ圖ルコト

△衛生的環境ヲ整備シ其ノ生活訓練ヲ重視スルコト

ロ、鍛練

△幼兒ニ適切ナル體育施設ノ徹底ヲ期スルコト

△室外保育竝ニ郊外進出ヲ一層盛シニシテ體位ノ向上ヲ圖ルコト

△遊戲ノ自然化、體育化ヲ圖ルコト

2、躰ニ關スル件

イ、團體ノ本義ニ基キ皇民道德ノ萌芽ヲ啓培スルコト

△皇室尊崇ノ念ヲ養ヒ、團體ノ尊嚴ヲ知ラシムルコト

△敬神崇祖ノ精神ヲ涵養シ以テ忠孝ノ實踐ニ努ムルコト

△感謝報恩ノ念ヲ養フコト

ロ、興亞ノ理想ニ則リ剛健ナル心身ノ基礎的鍊成ニ努ムルコト

△困苦缺乏ニ堪ヘ得ルノ氣魄ヲ養フコト

△獨立創造ノ精神ヲ涵養スルコト

△友愛親和ノ性情ヲ涵養スルコト

△勤勞ヲ愛好シ、奉仕犧牲ノ念ヲ啓培スルコト

△快活明朗ニシテ剛毅ナル性情ヲ育成スルコト

△團體的訓練ヲ重シ、協力一致ノ精神ヲ養成スルコト

△大國民タルノ襟度ヲ養フコト

△物質愛護ノ精神ヲ養フコト

三、保母ニツイテハ其ノ養成機關ノ整備擴充ニ努ムルト共ニ其ノ待遇改善ヲ圖ルコト

1、保母養成機關ノ擴充ニ關スル件

イ、文部省ニ保育專任ノ督學官ヲ置キ斯道ノ向上發達ヲ圖ルコト

ロ、各道府縣ニ女子師範學校ト同等以上ノ保母養成機關ヲ設クルコト

ハ、女子高等師範學校ニ保育科(文科、理科ト同様)ヲ設クルコト

ニ、幼稚園令第十條竝ニ施行規則第十條第二號以下ヲ削除スルコト

2、待遇改善ニ關スル件

イ、保母ノ待遇ヲ小學校本科正教員同等以上ヲラシムルコト

ロ、園長及保母ニ年功加俸ヲ給スルコト

ハ、園長竝ニ保母ノ若干數ヲ奏任待遇トナスノ途ヲ開クコト

ニ、私立幼稚園ノ保母ノ待遇ヲ公立幼稚園保母ニ準セシムルコト

四、幼稚園ト家庭トノ關係ヲ一層緊密ナラシムルト共ニ之ニヨリ家庭教育ノ改善ニ裨益セシメ併セテ幼稚園ノ社會教育的機能ノ發揮ニ努メシムルコト

イ、母姉會其ノ他諸會合家庭訪問又ハ文書等ニヨリ互ニ連絡ヲ圖リ幼兒教育ノ效果ヲ大ナラシムルコト

ロ、家庭ヲ善導シテ其ノ日常生活ヲ合理的ナラシメ皇民生活ノ強化ニ努メシムルコト

ハ、時代ニ即應シテ母親ノ自覺ヲ促シ幼兒教育ノ重要性ヲ知ラシメ保育ニ對スル認識ヲ深カラシムルコト

以上

第八回全國幼稚園關係者大會協議題報告

○國民學校令實施ノ際國民學校トノ連絡上保育ニ關シ
留意スベキ事項

協議題第一項委員一同

一、幼稚園保育の革新と國民學 校案研究の必要

國民學校案は從來の初等教育全般に互つて之を擴充整理し、皇國民として必要なる基礎的鍊成をなさんとするもので、我が國教育の内容を根本的に刷新せんことをする意圖が視はれる。即ち教材を整理統合して教育の徹底を計り、國民精神を涵養、智徳の啓培をなし、體育に努めて、心身一體智徳一致の教育を目指し、内に國力の充實、外に八紘一宇の精神を顯現する大國民を育成し以て皇國の道を發揚せんことを期してゐる。誠に我が國教育の一大轉回であつて、之に依りて教育の根本は確立されたのである。而して幼稚園保育も亦之に呼應してその革新を要望せらるゝに至り既に教育審議會に於ては「國民學校、師範學校及び幼稚園に關す

る件答申」中に「幼稚園に關する要項」を設けて之を説き本大會に於ても右要項の具體的研究をなして其筋に提出せられんことを期する。然しこの幼稚園の刷新は制度竝に内容の全般に及ぶものでなくては意味がなくなるから暫く今後の研究を文部當局の指示に俟たなければならぬ。只保育者としては徒に手を拱いて之を待つゝの態度に出づることなく、國民學校案の精神は單に初等教育のみのものでなく教育の全野に互つて一貫し相通する精神なることを深く認識し、案の一切について十分なる研究を進め、その精神に則つて從來の保育を反省し検討し以て教育の根本方針に歸一するやう留意せねばならぬ。

二、國民學校令の本旨と保育上留意すべき點

國民學校ハ皇國ノ道ニ則リテ普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲナスヲ以テ本旨トス

イ、皇國の道に則りて

國民學校に於ける最高原則であると共に幼稚園保育も亦この規範に則るべきは論を俟たない。故に保姆たるものは教育に關する勅語に昭示された「斯ノ道」の御趣旨を拜して國史に徴し、自己の體驗に於て萬古不易永遠に發展して一にして一切なる皇國の道を自覺して率先垂範幼兒の育成に力めねばならぬ。

ロ、普通教育を施し

これは國民學校の内容であつて「皇國民に必須なる普通教育」の意がふくまれてゐる。幼稚園はその内容に於て自ら異なるのであるけれども、單に抽象的な人間保育をなすのでなくて、具體的な皇國民としての保育を施すさいふこゝに留意せねばならぬ。

ハ、國民の基礎的鍊成をなす

國民學校の目的はこゝにある。國民は[○]大日本帝國臣民であり、基礎的[○]は次への準備の意味でなくてその教育自體が獨自の價値を持ち一ミ先づ完成するこゝである。即ち基礎的陶冶は準備教育でなくて動的完成教育である。動的なるが故に次の教育の準備にもなり生

々發展すべき性質を有するものである。鍊成[○]は子供のもつ全能力を鍊磨し國民的に育成するこゝである。かく考ふる時は幼稚園保育に於てもその精神に變りはないのであつて、只一步掘り下げて國民の基礎的鍊成は幼稚園を出發點[○]と考へたいのである。但し鍊成なる語をよく玩味して履き違へないやう吳々も注意したい。

三、國民學校施行規則の十項目と保育上留意すべき點

- 一、教育ノ全般ニ互リテ皇國ノ道ヲ修練セシメ特ニ國體ニ對スル信念ヲ深カラシムベシ
- 二、國民生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ體得セシメ情操ヲ醇化シ健全ナル身體ノ育成ニカムベシ
- 三、我が國文化ノ特質ヲ明ナラシムルト共ニ東亞及ビ世界ノ大勢ニツキテ皇國ノ地位ト使命トノ自覺ニ導クベシ

以上三項は國民學校の目的及び内容の鮮明であつて、直ちに幼稚園に適用することは出来ないが、保育者自らその認識を深くし信念を以て不言の裏に幼兒を感化するやう留

意しなければならぬ。皇國の道の修練、國體に對する信念、情操の醇化、健全なる身體の育成等保育者の信念を研究によつて保育の具體的方案が自ら生れ出づべきであるを信ずる。

四、心身ヲ一體トシテ教育シ教授訓練養護ノ
分離ヲ避クベシ

國民學校に於ては教育の方法を教授訓練養護の三分節とし然も之等の總合を要求してゐる。幼稚園に於ては夙に幼稚園令及び同施行細規則に依つて心身一如の保育をなすやう定められてゐる。蓋し未分化時代の幼兒に對して當然のことである。けれどもその實際について考ふるべき此の頃は保育者にも大いに反省を促して居るかのやうに見える。即ち

イ、知識の偏重に陥つてはゐないか
ロ、躰は幼兒の全生活を通じて行はれてゐるか
ハ、日常の保育は幼兒に負擔を重くし疲勞を過度ならしめてはゐないか
ニを例するに、特殊なる學校に入學せしむる爲精神検査に浮身をやつすもの。

繊細なる遊技を教へて巧緻なるを誇らんとするもの。家庭に持たらしむるお土産品の製作に全力を注ぐもの。必要以上の準備をなして幼兒に之を與へんとするもの。皆皆然

りである。故に今後は素朴單純なる保育に立歸つて心身の健全な發達をいふことに主力を注がねばならぬ。

五、各教科目ハ其特色ヲ發揮セシムルト共
ニ相互ノ關聯ヲ緊密ナラシメ之ヲ國民鍊
成ノ一途ニ歸セシムベシ

本項の各教科目といふことを各保育項目を考へて見るとき、幼稚園では從來全體的に、綜合的に、即ち生活的に保育するといふことが強調され、研究せられ、實施もされて來てゐる。今回國民學校案でこれが問題となり終に低學年に於て綜合教授が認められるやうになつたのは誠に心強い限りであるが尙進んで各項目を縦に統合するやう工夫してその完璧を期せねばならぬ。

六、儀式學校行事等ヲ重ンジ之ヲ教科ト併
セ一體トシテ教育ノ實ヲ舉グルコト
七、家庭及ビ社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ兒童
ノ教育ヲ全カラシムルコト

此の二項は教育の行はれる色々の場の統合を期してゐる學校にては教科による教育、教科外の教育、家庭教育、社會教育と色々場があるのが稍々もすれば分離し易いから特に此の項を設けられたものであらふ。けれども幼稚園では以前から之に關しては注意が拂はれ、儀式行事を保育體

系中に組入れたら、儀式行事を生活の中心として保育する場合も少くない。又家庭及び社會との聯絡も相當留意されてゐるやうに思ふ。が、此際一層の研究をなして

イ、儀式行事等を生活させることによつて我が國固有の考へ方感じ方行ひ方を知らず識らずの間に體得させ。

ロ、家庭との連絡についても、家庭訪問や母姉會等より進んで、文書の往復による連絡、尙進んでは家庭教育の指導の爲の施設をなす。

やうに研究したいものである。

八、教育ヲ國民生活ニ則シテ具體的實際的

ナラシムルコト

保育も亦同様である。但し幼稚園に於ては高次の國民生活に目標を置いてはならぬ幼児をして郷土生活に即せしめ、郷土生活を通じて國民生活を體驗せしめたい。

九、兒童心身ノ發達ニ留意シ男女ノ特性個

性環境等ヲ顧慮シテ適切ナル教育ヲナス

コト

十、教育ニ際シテハ兒童ノ興味ヲ喚起シ自

修ノ習慣ヲ養フニカムルコト

兩項共に社會學教育學の教ふる所をのべて注意を促して

る。幼稚園にても心しなければならぬことであつて、特に「兒の興味を喚起し」のところが大に味は、ねばならぬ。又「自修の習慣」については幼児にも自分で發見し自分で考へ自分で解決して行くといふ芽生はもつてゐるのであるから、親切過ぎる保育手の届き過ぎる保育の爲にこの精神の芽生までも摘みさらぬやう注意しなければならぬ。

四、國民學校教科及科目と保育上

留意すべき點

國民學校案の教科及び科目は幼稚の保育項目とは同一視することは出来ないが、今回の改革の精神は大に參考すべきである。次にその教則案中につて以て他山の石とすべきものを擧げて見るこ

○皇國ニ生レタル喜ヲ感ゼシメ敬神奉公ノ眞義ヲ體得セシムベシ

○禮法ノ實踐ヲ指導シ禮ノ精神ヲ會得セシムルト共ニ公衆道德ニツキテ適切ナル指導ヲナシ品位ノ向上ニ努ムベシ

○躰ヲ重ンジ家庭ト聯絡シテ善良ナル習慣ヲ養フニカムベシ

○話シ方ニ於テハ兒童ノ自由ナル發表ヨリ始メ次第ニ醇正ナラシメ併セテ聽キ方ノ練習ヲナスベシ

○自然ニ親シミ自然ヨリ直接學ブノ態度ヲ養フベシ

○植物ノ栽培動物ノ飼育ヲナサシメ生物愛育ノ念ヲ培フ
ト共ニ繼續的ノ觀察實驗ニヨリテ持久的ニ研究スル態
度ヲ養フベシ

○膝姿勢其ノ他訓練ノ效果ヲ日常ニ具現セシムルニカム
ベシ

○衛生養護ニ留意シ身體検査ノ結果ヲ參酌シテ適切ナル

(二七頁より續く)

改良半紙のほごを細く切つた物に糊をつけてまめて行く。人間の鼻、狼の口等の出張る所はやはり端書古を用ひてつける。大體形の出來上つた所で白い改良半紙を上から一通り張り、乾して繪の具で色をつける。小さい人形を作りたい時は新聞紙を半分にするればよいが、今の舞臺で用ひる人形としては一枚を用ひたのが一番適當であらうと思ふ。此の方法は實に簡單で自分々々の思ふ形に作れるので愉快である。

人形の使ひ方について

動作はなるべく自然に……

あまり首を振つたり、せわしく手を上下したりするのは見て居てわづらはしく下品である。自分が其の人形になり切つて、自分が其の時にする動作そのまゝをすればよいと思つた。

○脚本について

指導ヲナスベシ

○歌詞及ビ樂曲ハ國民的ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナ
ラシメ徳性ノ涵養ニ資スルモノタルベシ

○發音及ビ聽音ノ練習ヲ重ンジ自然ノ發聲ニヨル正シキ
發音ヲナサシメ且音ノ高低強弱音色律動初音等ニ對シ
鋭敏ナル聽覺ノ育成ニカムベシ

幼兒に適する物といふ事は勿論で其の長さも二十分位で終る物が適當ではないかと思ふ其の筋全部を演出せずとも、其の最もねらふ所を行つて、他は適當にカットしてもよいと思ふ。たゞ此の場合前後のつながりをよくつけるといふ事は脚色者の腕による所であらう。

演出に當つて

書いた物で讀むよりも、其れを人形で行ふ場合には幼兒にはつきり受け入れられる爲に、スリルミといはふか、幼兒にヒヤ／＼させる様な場面に於ては餘程注意が必要だと思ふ。あまりに度が過ぎない様、あつさりとする事が大切であると思つた。

尙ほよい音樂を併せて用ひる事はよいと思ふ。最後に、色々研究し、改めて行く事は最も必要であるが、幼兒を對照であるといふ事を必ず頭の中に於て、あまりに行き届き過ぎて、幼兒に想像の餘地をなくしてしまふ事の無い様、注意しなければならぬと思つた。

各地保育
會の活動

富山縣保育協會概況

富山縣女子師範附屬幼稚園

佐倉シゲ

役員 (昭和十五年六月改)

會長 今井秀一 富山縣女子師範學校長

副會長 北條正賢 魚津幼稚園長

理事 金村憲三 高岡幼稚園長

理事 各園所に一名 (園長若くは主事)

常務理事 森本善助 市立富山幼稚園長

松倉義研 同明幼稚園主事

吉田哲龍 志貴野幼稚園長

遠藤正流 出町幼稚園主事

空本和助 附屬幼稚園主事

幹事會 毎年度の初め大抵四月下旬に開催、右役員の方

々各園所から保姆一名つれだつて出席する。會場は各園
まわり當番さいふ事になつて居りその日は當番幼稚園の視
察を行ひ尙保育實際の狀況等參觀の事があり、つづいてそ
の年度の豫算事業等の協議をなすのである。

研究大會 年に一度は必ず開かれるのでこれは園長さん
も主事さんも保姆さんも全部出席。豫め提出されてある議

題について意見を述べあひ保育實際についての研究發表は
保姆の側から多く、終日熱があがるわけになります。協會
加盟園所三十六。會員百名餘。これが開催時期は六月初め
頃、めいめいが持ち寄つた手技の實物や遊戯などは即座に
見えるおみやげさなる譯である。はじめ開會の辭もすんで
議長さんが席に著かるゝ頃から、全員かたくなつて黙りこ
んでしまふ様な場面もかつてはありましたが、一つ緒が出
たらなかゝの名論?、ではない實際談に花が咲き、遊戯
實演の頃さもなれば意氣高潮に達する光景も見られるので
ある。會場は女子師範さ定つてゐるし毎年の事ではあるし
保姆さん總動員の活動舞臺であるだけに、いつきめたさい
ふ事もなしに事務所附屬幼稚園から「今度もまたお手傳に
いらして下さい、明日の午後一時半にお集り」さいつたやう
な電話を、市立富山幼稚園にかける。即座に「かしこまりま
した」返事、市内それから「へ」傳へられて會前日は
市内の各園から保姆さん方集つて來て會場のしつらへを初
め萬端の手傳、當日の係についての打合せなすすまじ當日

ともなれば遠隔の地方から出席の方々の都合のよきやう今日の會合をより意義深く過さう意氣で以てまめしく立働き何事も運ばれていくのである。

講習會 幹部會できまつた講習會は大抵夏の休みに開催、これも會員全部出席のこまなつて居ります。準備、あこしまつなぎやはり保母さん方が手傳つて相共に力を出しあつて進められていきます。これまでも及川先生、戸倉先生に度々お願ひ致しましたやうなわけで會員待望の會合講習會々費は協會員無料さいふ事になつて居ります。

會費の件でありますが本協會の負擔金として年額五圓さいふのを加盟各園所が納めそれでやつていくのであります。近時縣の方からも僅少の額ではあるが補助金交付されるのでさうかして、もつこく活潑な足ざりが出来るやうに張り切つては居ります。これも會場はいつも女子師範。

健康優良兒表彰 これは昨十四年度から始められ本年は去る六月第二回表彰式が行はれました。加盟各園所から二名づつ健康優良兒候補を出し、その中から會に於て十餘名を選んで再検査を行ひ表彰するのである。式には一般幼児の保護者も列席して子供の健康について一段の注意を勵ましをかけるさいふ譯になる。

富山縣保育 三題した小冊子を年一回發行、協會各園所、各會員の聯絡を圖りかつは研究意見等の發表をなすな

ミ機關雜誌——ミ申しては、みなへが餘りにも大き過ぎます。くれぎ。兎に角第二十三號をよんで居ります。

本協會加盟園所名

東岩瀬幼稚園	城端託兒所	高岡幼稚園
新庄	慈光保育園	志貴野
同明	出町幼稚園	德風
同和	福野	立正
上市	聖德保育園	光嚴寺
魚津	石動幼稚園	大谷
水橋	福光保育園	奥田
泊保育園	戸出幼稚園	稻荷保育園
東光	八尾町婦女會	市立富山幼稚園
新湊幼稚園	兒所託	青葉
新湊東部幼稚園	四方保育所	五百石
双葉	水見幼稚園	富山託兒所

○フレール賞入選の童話は、紙數の都合により本號に休載致しました。

○フレール賞による童話の募集(委細は本誌廣告にあり)は二月末にて〆切りになりますから、皆さん奮つて御應募下さいませう、係より御注意に併せて御願致します。

(編輯部)

月刊「幼児の母」に就て

四八

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう一年になります。毎號甚だ不出來ですが、それでも廣く各地幼稚園の御賛同を得て、月々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

あんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のもので、すが、毎月一萬數千のお母さんに讀んでゐて貰へると思ふに、大によろこんでゐます。ほんの四頁といふのも、忙しいお母さんの立讀みにもいふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さること、これが何よりなのです。

就ては、從來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新らしい方々にも願ひいたします。尙ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたこと、思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手数数の多いことですから、半年分なり一年分なりまごめて御註文下さるやう願ひます。當方でも印刷部数の豫めきまつてゐるのですが、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多いと思ひますから、四月を始めとして、四、五、六、七、三四月を一期、九、十、十一、十二、三四月を第二期、一、二、三、三ヶ月を第三期としてまごめ

たが御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢(一部金貳錢)

○送料 十部まで三錢

二十部以上送料不要

○十部以下の端數はおこしはります。

一、御註文の節は部數三何ヶ月分といふこと、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記して下さい。

一、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座(東京一七二六六番)をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたこと、のやうですが、御利用の仕組は(イ)幼稚園が保護者に無料で配布される場合、(ロ)實費を保護者銘々の負擔になさる場合、(ハ)幼稚園内の保護者會或は母の會等が費用を負擔をなさる場合等、その他いろいろの仕組があらうと思ひます。

充分御利用下さい。

幼児の母



昭和十六年
二月

新體制の母

我子のいゝお母さんであるべきことは、神代から變りはありません。が、今日の我國の母は、是非とも、今日の我國の新體制に合致した母でなければなりません。それには第一に、

一、我子を國の子に仕上げる心掛けでなければなりません。子を育て、親自身の幸福のためにしようといつた我利主義は論外として、子どもを自分の幸福のみを追ひ求めるやうな個人主義者に育て、はならないのです。國に捧げる爲に我子を強く良くすると共に、子どもに、國への御奉公の心をしつかり養はなければなりません。次に、新體制下の母は

一、我家のことに働くばかりでなく、國のことに關心をもち、又その用も受けもたなければなりません。殊に國民生活の組織の基底になる隣組の爲に、力を協はせることが、家の内のことゝ結びついて行はれてゆかなければなりません。家の内の仕事に不精であつてならないのは勿論、いくら忠實な御家内さんでも、その力を我家以外へ一步も廣く出さないやうな人は、新しい母ではありません。それから、それから、

一、ぜいたくなおしやれをするのも、新しい母でないでせうね。「お母さん、そんな舊體制のおしやれなんかして、きまりが悪いからよして下さいよ」と、我子が恥かしがるでせうからね。

幼稚園から

○お寒さの月です。お子さんに風をひかせないやうに御注意下さい。ひかせないやうにといふのは、子どもが風をひくのは自分の不注意ではないからです。あゝあの時と、後で氣のつく不注意が、おとなの方にきつとあるのです。——といつて室内に仕舞ひ込んで、眞綿でくるんで置いてはいけません。幼稚園では出来るだけ室外で日光にあて風にあてるやうにしてゐるのですから、家庭で餘り反對にしては却つて風のもとになりませう。

そこで、注意は周到にしつゝ、バカ大事にせずがいゝのですが、それでも全く風ひかすといふ譯にもいきませない。その時に早く氣のつくのが家庭の役目です。熱があるのを不注意に出して、幼稚園の責任にされては、幼稚園はいゝとして、お子さんに氣の毒です。

母の
講座

わが子を良い子に

二、眞實な子正直な子

倉橋惣三

前號にお話した、一生懸命になれるといふのは、遊ぶ、繪本を見る、お話を聴くといつた、謂はゞ子どもとしての仕事に對する態度に就て言つたことです。その同じ性格が、人に對し、自分に對しては、眞實とか正直とかいふことになりません。これ亦まことにわが子に望ましいことです。不眞實、不正直、それでは、何がよく出来ても人間としてまるつきし駄目ですからね。

但し、何しろ幼い子どものことです。眞實の正直のと言つても、さう／＼堅い嚴めしい譯にはいきません。いろ／＼と心の動きも、氣もちのゆらぎもありませう。しかし、生活の實際にはあらはれて来るところで、なんとなく、かうした性格のしつかりしたところのあるのと無いのとは、區別の立つものです。づるいと

言つては、言ひ過ぎるが、ごことなくい加減なところがあつたり、ごまかしといふ程ではないが、かくし立て、つくりごとが多かつたり、ごうも、その時の都合にまけて當てにならないところのある子があります。その反對に、自分に都合がよくても悪くても、即ち損でも徳でも、本當は本當で通してゆくといつた風のある子こそ頼もしいものです。

ところで、斯ういう區別は、多少生來にもありますが、傍からの仕向けられ方でごちらにもなることが多いのです。御機嫌とり専門の召使ひなどが、坊ちゃんやんの立場をらくにしよとして、ねえ、かうなんでございますねえなど、つくりごとを押しつけたり、まあさうしてお置きなさいでその場をつくらうことを教へたり、さうすると、子ども、これは成

手製榮養お八つ

厚生科學研究所
國民榮養部 佐々木 理喜子

今月は、果物類はかなり豊富にございますから、色々に利用し、砂糖の足りないところは、さつまいもや、馬鈴薯を工夫して用ひませう。こゝに用ひます砂糖の量一〇瓦は小匙に山二杯位の見當になります。

【1】りんご汁とビスケット

材料 ビスケット(普通の市販品)又は
おせんべい二五瓦、りんご五〇瓦、
砂糖一〇瓦、以上で一五四カロリ
作り方

ビスケットがおせんべいは、おうちに有合せをその儘用ひます。熱く沸した御湯を大き目の湯呑茶碗に八分目入れ、りんごは大體一個の三分の一位になります。が、卸金で手早く細く卸しまして、お湯の中へみんな入れます。そして砂糖を加へます。さうすると美味飲料が出来ます。熱いお湯の中に入れる爲にりんごは赤く變色なしません。スパンを添へていたゞ

程と、り、こ、う、い、ものになるのです。しかも、それらより一番悪いのは、傍にゐるおとなが、流通自在なごまかしを、したり言つたりして、子どもに教へるともなく仕込んでゆくことです。どうも、悪いことは、おとなが教へることが多いのですが、かうしたことは一層さうらしいのです。さうしては、純真といふか、生一本といふか、子どもの貴い單一性を複雑にし、きれいな心もちを濁すのです。この子は馬鹿だねえ。なんてゆうづうがきかないんだらうねえなどいふ言葉が、屢々親の口から出て、折角の正直を馬鹿正直呼ばゝりしたり、折角の眞實を分らず屋といつて冷かしたりするのも少ないことです。幼い子の癖に、さう／＼ゆうづうがきくやうになつては、未恐ろしいといふべきではありませんか。

眞實、正直がいゝことは誰れでも知つてゐます。それをさうでなくするのは、多くは、おとなの都合上からです。眞實はいゝが頑固でこまるとか、正直はいゝが小面倒くさいとか、いづれも、おとなの方の言ひ分です。幼い時さう扱つて置いて、後になつて修身で、誠だの信義だのと訓言を聞かせたつて始まりません。心の誠、いつはれない正直といつたことは、道徳上いゝことだからするといふものではなくて、さうでなくては氣が濟まないといふ性格から出るべきものです。そして、その性格は幼い時からの心の癖で練りかためられてゆくものです。しんのないやうな、ふわ／＼、だら／＼としてゐる子は、可愛いらしいといへば可愛らしいのですが、だん／＼に練り上げてゆかないと、無性格者といつた、あんまり可愛らしくて頼みにならない人間になりませう。幼い子は、あんまりおこ／＼さんでない位がいゝでせう。

前回の一生懸命と、今回の眞實とは、人間の性格の教育の一番根本になる大切なことです。良い子の第一要件です。

きます。

【2】みかんの變りセリ

材料 みかん(大)一個、馬鈴薯一〇〇

瓦、寒天三分ノ一本、砂糖一〇瓦、

以上で一六カロリ

作り方 みかんは皮のきれいなを横

二つに切り、中を出して汁を絞ります。

馬鈴薯を蒸して潰し、寒天を湯三分ノ一

合位入れて溶し、みかん汁を加へ、砂糖

とおいもを加へて、煮つめます。此れを

皮二つの中に流し固めます。

【3】ホットケーキ

材料 メリケン粉三〇瓦、人參一〇瓦、

砂糖一〇瓦、甘薯二〇瓦、ベーキング

パウダー少々、以上で一六〇カロリ

作り方 人參を薄く切り、蒸してよく

摺り潰します。メリケン粉にベーキング

パウダーを加へて、適當の水でこき(天ぶ

らの衣位、餘りかきまぜると粘氣が出て

困ります)人參を加へると、卵を入れた

様に見えます。小さいフライパンに油を

塗り、よく焼いてから、メリケン粉を丸

形に流し込み、皮を二枚作ります。甘薯

で餡を作り、間にはさみます。

國民學校と家庭(二)

この三月に保育を修了なさるお子さんは、我國最初の國民學校一年生になります。兄さんも姉さんも、同じく國民學校に通はれるのですが、新しい國民學校の最初の入學者は、こんどのお子さんです。うっかり小學校なんていつたら、お母さんは舊いねと言はれますよ。

しかも、名前のかはることだけ知つて、實質がどうかはるのかわらなくて、皇紀二千六百一年の母とはいへません。そこで先づ、なぜ名稱がかへられるのかといふことですが、文部省の發表の言葉でいふと、「要するに、小學校が國民學校と改稱されて、初等普通教育が、國家の後繼者を育成するために、國民全體を基礎的に鍊成する教育であることが明確になつたのである。」(週報一月十五日號)です。之れを裏から見れば、子どもを國民學校に入校させるのは、たとへば賢くなる爲とか、世渡りが出来る爲とか、即ち、個人としての生活のためでなく、ごこま

でもよき國民になる爲にといふことです。即ち、個人主義の教育でなく國家主義の教育であるといふことが、國民學校の名稱の中心であると言つていゝでせう。そこで、家庭としても、國が國民學校を設立してゐると同じ心で、我子を就學させるのでなければなりません。

これは、從來の小學校でも根本的には異つてゐた譯ではないでせうが、ごうも此の肝心な國民教育といふ意識が、少くも保護者の方に、充分強くないことがあつたかも知れません。一切を、いゝ國民にするといふねらひで、導き勵ますことが弱かつたかも知れないのです。それに對して、體を丈夫にするのも、學力をつけ知識を貯へるのも、行ひを正しくさせいゝ子どもにならせるのも、すべて、いゝ國民となつて國に盡すことの出来る爲だといふところに、新しい國民學校の教育の精神があるのですから、家庭としても同じ精神でなければなりません。この點を、國民學校の方としては、一切の教育を皇國の道に則つて行ひ、國民に鍊

成することを目的とすると言つてゐる譯ですが、家庭でも、はつきりその心でなくてはなりません。

こゝで實際上に大切な點は、鍊成といふことで、之れは鍊磨育成の意味であるといはれてゐますが、つまり、子どもは自然性や、智能を伸ばすだけでなく、すべて皇國の道に則つて、子どもは全能力を正しい目的に集中せしめ、國民的性格に育成鍊磨してゆくといふことです。ですからその教育には、國民精神の力が強く加へられ、假りに、その反對の方に傾こうとすることは勿論、反對でなくとも、國民精神的に弱いところがあることを許されないので、従つて、その教育は、子どもは子どもらしくあればいゝといふやうなことに止らず、ぐんぐん國民に仕上げてゆくのです。そして、これは、國民學校として一年生から怠りなく行はれることです。その點、家庭としても、入學の初めから心得てゐなければなりません。心得ると共に、その點を我子と共に喜ばなければなりません。

幼兒の衛生 (三)

文部省講習會講述速記

萩原兼文

この我々は生れ落ちる時から死ぬまで片時も、空氣といふものがなくては生きて居られない、それでありまして世間では空氣といふものに餘り關心を持たない人が相當あるだらうと思ひます。また餘りに關心を持ち過ぎて神經質になる必要もありませんが、空氣は我々に一體さういふ影響があるか位は、一般の常識として知つて戴きたいと思ふのであります。先づこの衛生學の方で空氣を研究します場合に、我々は空氣を呼吸して生きて居りますから、先づこの空氣を呼吸する空氣としての研究を、もう一つは我々は常に空氣に包まれて居りますから、環境としての空氣、この研究の仕方二通りある譯であります。我々がこれを吸ひまして、さういふやうな影響があるかといふ様なことを考へる場合には、先づ空氣の化學的性状及びその中に含まれて居りますゴミとか微菌とか、さういふものを吸つて我々は害があるか、ないかといふことを考へなければなりません。それから第二の環境としての空氣として研究します場合には、これは我々の環境の空氣が我々に丁度都合がいゝか、さうか、畢り暑いとか、寒いとかいふやうな工合で、これを物理的に解釋して、溫度とか濕度とか氣壓といふことに就いて研究する譯であります。そこで先づ最初に第一の場合の呼吸するた

空氣衛生學

A 吸氣としての空氣(化學的性状)

- | | |
|---------|--------|
| 1. 酸素 | 4. 煤煙埃 |
| 2. 窒素 | 5. 塵埃 |
| 3. 炭酸ガス | 6. 空中菌 |

(一酸化炭素)

B 環境としての空氣(物理的性状)

- | | |
|----------|------|
| 1. 溫度 | } 氣候 |
| 2. 濕度 | |
| 3. 氣壓(風) | |

めの空氣といふ方からお話して行きます。

空氣の化學的性状は皆様御承知の通り酸素が大體二〇パーセント、窒素が約七九パーセント、それからあとは炭酸瓦斯が戸外の空氣です。三〇・〇三パーセント、それからまだ水分が含まれて居ります。その外にゴミがありますし、煤煙があります空

中菌があります。そこで最初に酸素のお話から致しますが、酸素は普通この地上では——無論戸外の空氣では殆んど變化がありません——これは自然に風が吹きまじたり、或は植物が酸素を供給してくれますので、殆んど二〇パーセントに變る事はありません。唯特別に閉め切りました部屋の中には、時にこの酸素がだん／＼減つて行くことがあります。然し普通の場合には先づ酸素が足りなくなるさういふことは毛頭ありません。先年私共は、防空壕に入りました場合にさういふやうな状態になるか、これから先、或はさういふ時機が到來しないさも限りませんのでやつてみる必要があります。密閉地下室に入りました、第一回は一昨年九月の十一日でありましたが、神田の或る銀行の地下室を借りまして、約七十人の人が入つた。無論この東京が空襲を受けました場合に、先づ第一に爆彈を落されるさういふので、その意味で爆彈の届かない地下室を選びました。それからもう一つ毒ガスを落されますので、毒ガスは空氣より重いものでありますから窓から毒ガスが中に入つて来る。それで部屋を密閉しなければならぬ。そこでさういふ中に何時間位我慢出来るかさういふことを、實驗して置きません。萬一の場合に困る、さういふ意味でやつてみたのであります。その時に第一回にやりました時は、大體初めは一人當りの空氣容積が一、三立方メートル位であります。そこへ三時間入つて、私共がいろ／＼實驗致しました。中に入つてくれた人達は神田の防護團の有志の人達であります。ところが何分にも九月の十一日でありましたから非常に暑く、私共は酸素がだん／＼少なくなるのを實驗して來ましたが、精々一六パーセント位のもので、それよりも外に温度が非常に高くなりました。汗は初めから止らない位出ました。酸素の缺乏は大して問題ではありませんでしたが、暑さがたまらなくて、兎に角、三時間出ました。結局、夏の實驗はさうもこの本當の酸素さか、炭酸瓦斯の實驗さういふことにはならない。寧ろ温度さか湿度の影響が強いさ考へますので、第二回は冬、これは昨年の三月でありましたが、赤羽にマスクを造ります昭和化工さういふ工場がありますが、その庭先に防空壕を掘つてあります。その中に五十五人ばかり入りました。これは大體五十人入れて丁度一人當り一立方メートル位になるやうに造つてありますが、そこへ五十五人入りましたので一人當り〇・八二立方メートル位になりました。そこで矢張り三時間居りましたが、今度はその女工の人を頼みました。入つて貰ひました、實驗者三併せて五十五人、さういふところが今度は温度は大して上らず、最後は二十七度位でありましたが、酸素は大體一四パーセント、炭酸ガスが七・二パーセントで實際最後の三十分は非常に苦しかったです。私共も腰かけて實驗して居りましたが、一寸立つて外の人と話さうさしましてもフラ／＼と倒れさうになりました。さうしてやつ

三時間で開けて貰ひました。ところがあそこで女工が四五名腦貧血を起して、外に出て倒れました。男は一人も倒れませんでした。これは無論非常に無理な實驗でありまして、平生なら問題だらうと思ひますが、皆非常時だからといふので進んでやつてくれましたので何も文句は言ひませんが、少し實驗としては無理な實驗であります。然し男なら我慢しますが、御婦人の故か女工が五六人倒れました。然しまア二時間ほごで皆起きて居りました。

さういふ工合に酸素は一四幾らに下りましたが、その場合は酸素の缺乏も無論でありますけれども、同時に炭酸ガスの増加といふこともあつたらうと思ひます。結局あそこで考へますと一人當り一立方メートルの容積がありましたら、普通の人で二時間入つて居るのが限度と思ひます。二時間を越して三時間は無理ではないかと思ひます。ですから將來防空壕でもお造りになりまして、萬一の場合避難する時には一立方メートル一人當り二時間にして置いて戴きたいのであります。無論飛行機の空襲は長く續かないのでありますから、二時間しましたら一べん開けて換氣をすればいゝと思ひます。それで地上では酸素がだん／＼少なくなるといふことは、防空壕に入つた時以外に心配する必要はありません。假に窓を閉めてありまして、少し隙間があれば——それは幾らか酸素が減るか知れませんが——兎に角、酸素缺乏にはなりません。大體、酸素はどの位からが危いかといふと一三、四パーセント位からであります。その頃からそろ／＼危険であります。それから一〇パーセントを切れますとこれは本當に危い。酸素缺乏といふのは急に意識不明になりますから、非常に氣をつけないといけない。ところが實際の場合、假令防空壕に入りまして一〇パーセント以下になるときは、まあないだらうと思ひます。唯我々が考へる一番危険なのは飛行機に乗つて高く上る場合です。この空氣は大體地球を取巻いて居りますから、上の方へ行けば行くほどだん／＼稀薄になります。然し空氣の組成、酸素のパーセントは大體一萬五千から二萬メートルまでは大して變りません。矢張り二〇パーセント位あります。ですからいゝぢやないかといふやうにお考へになるか知れませんが、上の方に上つて行きますと空氣の重さ、氣壓が變つて來ます。大體五千五百メートルで氣壓が半分になります。地上では大體氣壓は七百六十ミリ、それが五千五百メートルになりますと半分になります。ところが我々はこの空氣を呼吸しまして、その酸素をさうして吸つて居るかお申しますと、これは酸素の重さで、肺胞の血液の中に押込んで行く、ですから今假に地上の氣壓が七百六十ミリとしますと、その酸素の壓力は、その百分の二十です。七百六十ミリの百分の二十が酸素、大體それだけの壓力をもつて血液の中に押込んで居ります。ところがだん／＼高いところの上つて

來ます。氣壓が下つて來ますから、畢り五千五百メートルになります。氣壓が半分になりますから、血液中の酸素も半分しかありません。畢り酸素が一〇パーセントしかありません。一〇パーセントは危険界ですから、さうしても我々は危険だといふことになるのであります。で一體我々はこの空氣を吸ひまして、また吐き出しますが、その吐き出します空氣の中の酸素は何パーセント位かといふと、これは一五パーセント位、ですから我々は身體の中へ酸素を——二〇パーセントの酸素を——吸ひますが、結局その内の五パーセント位しか利用して居ないで吐き出してしまつて居ります。肺胞内の空氣は大體一五パーセント位であります。飛行機で五千米以上の高いところに上ります場合には、さうしても酸素を持つて居なければならぬ。地上でありましたらば密閉室に長く住ぶ場合は、さうしても酸素が必要であります、それ以外の時には酸素を考へる必要はないのであります。

その次は窒素です。窒素は大體七九パーセント位空氣の中にありますが、これを我々が呼吸しまして吐き出します中にも、矢張り窒素は七九パーセント位あります。殆んど變つて居りません。畢り我々は窒素を利用することを知らないのです。我々の身體では窒素ガスは直接利用して居ない。それならば窒素なんか要らんぢやないか、と言ひますが、それは我々は利用はして居りませんが、考へやうによつては酸素は非常に酸化力が強いのですから、酸素が六〇パーセント、七〇パーセントあつた場合には世の中の現象は非常に變つて來ます。物が非常に燃え易くなります。さういふ酸素の強烈な酸化力を、窒素が多少薄めてくれると考へれば、窒素もなければならぬのであります。唯我々の身體がこれを利用しないだけで、自然界に於て生物が生きて行きますには、矢張り必要なものであります。

それからアルゴンといふものがあります、これはラムゼーといふ人が「忘ける」いふ名前をつけたのであります、これは未だに化學現象が判らない。或は無意味にある譯でもないと思ひますが、アルゴンがその位さういふことをして居るのか判つて居りません。その外、ヘリウムとか水素もありますが、大量の場合は問題も起りませんが、極く少量のことでありますから問題にならずに済んで居ります。

その次は炭酸ガスです。CO₂です。これは普通、外の空氣でも〇・〇三パーセントはあります。物が燃焼しますと無論炭酸ガスが出て來ますが、同じ例へば都會のやうなところでも、工場地帯の近所に行きますと、多少殖えて居る場所もあります。然しながら極く僅で〇・〇四パーセント位です。炭酸ガス中毒といふことをよく申しますが、一體その位になつたら

居りまして、割合に一酸化炭素中毒といふものを起さなかつたのはなぜか言ひます。それは日本室といふものが非常に換氣がよいからであります。日本の部屋といふのは殆んど隙間だらけです。始終空気が入替つて居たからであります。大體日本建築です。三時間に三回位空気が入替ります。大體障子を閉めて當り前にして置いて三回位空気が入替ります。ところが鐵筋コンクリートで、窓を閉めて置きます。多少の換氣はして居りますが、換氣回数は非常に少ない。まあ二時間にやつと一回位でせう。さういふ譯で今まで火鉢を何んらの危険もなく使つて居りました習慣で、假に、鐵筋コンクリートの然も狭い部屋に火鉢を起しまして、そのまゝにして冬なご寝ます。必ず一酸化炭素中毒を起します。それでは一酸化炭素中毒はなぜ怖いか言ひます。我々は酸素を吸ひます。血液の中のヘモグロビンが結びつきまして、酸化ヘモグロビンといふものが出来る。ところが一酸化炭素が假に空気にあります。一酸化炭素がヘモグロビンが、化合力と言ひますか、結合力、親和力と言ひますか、それが酸素に比べると二百倍位、結合力が強いのです。そのために酸素がありまして一酸化炭素があります。ドン／＼ヘモグロビンは一酸化炭素ヘモグロビンになつてしまひます。従つて酸化ヘモグロビンがだん／＼少なくなつて畢り酸素缺乏窒息状態になります。普通一酸化炭素ヘモグロビンが血液の中に三〇パーセント出來ます。結局酸化ヘモグロビンが三〇パーセント減つて七〇パーセントになります。一酸化炭素中毒症状を起します。その中毒症状はさういふものかさいふに眩暈がする。炭酸中毒の時は眩暈は致しません。呼吸がせはしくなります。これは人間の自然的の現象で、成るべくいふ空氣を澤山吸はうといふので呼吸数が殖えます。一酸化炭素中毒は非常な眩暈が起ります。その内に頭が痛くなりまして、何んもなく一種の不安な感念が出て來ます。若し部屋の中にもつと一酸化炭素を起して置きます。結局血液の中に半分一酸化炭素ヘモグロビンが出來た場合、我々は打つ倒れる。腦貧血を起しまして意識不明になつて打つ倒れます。さういふ場合に空氣の奇麗なところに連れて行きます。靜に寢かして、まあ葡萄酒なり、飲ませます。無論意識は直ぐ回復致します。唯血液の中の一酸化炭素ヘモグロビンといふのは、さういふ回復と同時に非常に減ります。假に五〇パーセントあつて倒れまして、やつと減りまして二〇パーセント位になります。あそこは少しづつ残つて居ります。畢り幾らか慢性中毒に移つて行きます。ですから常に火鉢のあるところで始終働いて居ります。だん／＼一酸化炭素の慢性中毒になるのではないか言ひます。日本では火鉢を使ひますが、外國あたりではさういふことが餘りありませんので外國では一酸化炭素中毒は、自動車のガ

レーヂで始終働いて居る人、斯ういふ人は始終この自動車のお尻から出て居るガスで、その中毒になりはしないかミニ
ーヨークあたりではいろいろ調査をしたことがありますが、まだ急性中毒を起すまで甚い人は居りません。日本では今東
京市衛生試験所の石原さんが、東京市のバスの車掌運転手、それから東京の交通巡査、さういふ人の血液を取つて見まし
て一酸化炭素ヘモグロビンを調べましたが、まあ大したことはない、多少この巡査の中には——常人は知らないものであり
ますが——有つた。これはなぜであらうかを調べましたが、結局巡査の溜りに冬になるに火をカン／＼起して居るころが
ある。その故だらうといふことであります。それでは一酸化炭素といふのは空気の中にどの位あるに危いか、先づ空気の
中に〇・〇五ですネ、〇・〇五パーセントあります、我々は中毒を起します。ソロ／＼中毒を起して來ます。然し實際に
危険なのは〇・二パーセントから〇・五パーセント位です。〇・五パーセントになると非常に危い。假に空気の中に〇・一バ
ーセント位一酸化炭素があります、我々はそれを呼吸して居つてどの位で打つ倒れるかと言ひます、先づ二時間半さ
ういふ部屋に居ります、畢り五〇パーセントの一酸化炭素ヘモグロビンを造ることになります。先年この石原さんがま
だ大學の教室に居られます時に大體十五疊位の鐵筋コンクリートの部屋の中に、普通の火鉢に火を山盛り起しまして、部
屋を閉めて、どの位一酸化炭素がこもるものかといふことを試験しました。さうしますと三時間後には〇・〇四パーセン
トになります。ですから假にその倍の六時間にしますと〇・〇八パーセントになりますし、さういふところへあつて二三時
間もそのまゝ寝て居ります、結局意識不明になつてしまふのであります。要するに一酸化炭素の方が炭酸ガスよりも餘
程怖い、畢り血液が結ぶ毒が非常に怖い。よくこの東京に小學校が鐵筋コンクリートに改造されました時分、小使が夜火
鉢に火を起して置いて翌る朝打つ倒れて居たといふ話も聴きました。それから先年有名な博士が夜寝る時に自分の部屋の
ガスをうっかりして蹴躓いてガスの口が開き、それを知らずに寝て、翌る朝冷たくなつて居たといふことを聴きました。
ですから一酸化炭素中毒は非常に怖いのであります。いろいろの場所には斯ういふ毒ガスがあるといふことを調べます
と、まだ澤山あります。たゞへば工場などには澤山あります。それから戦争の場合の毒ガスもいろいろあります、さう
いふお話は時間がないのでやめて置きます。

(つづく)

保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十六年三月、左の二十六名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それら適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望に燃えてゐます。

氏名	出身	生年	氏名	出身	生年
赤木 和榮	岡山縣立新見高等女學校	大正十二年六月八日	關 登美子	東京府立第三高等女學校	大正十一年十月三十日
五十嵐幸子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十二年二月十一日	高村 章子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十一年七月十日
岡田伊都子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十一年五月廿九日	高山 良子	東京櫻蔭高等女學校	大正十一年三月八日
岡本 彌生	京都府立京都第二高等女學校	大正十二年三月廿六日	佃 光子	廣島縣立三原高等女學校	大正十二年七月十日
佐伯八重子	東京府立第五高等女學校	大正十一年十月廿七日	徳川伊津子	女子學習院	大正十一年五月五日
佐々木田鶴	和歌山縣立和歌山高等女學校	大正十一年六月六日	中桐 鈴子	岡山縣立味野高等女學校	大正十一年一月二十九日
佐々木英子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十一年四月十二日	丹羽 英子	東京府立第六高等女學校	大正十一年四月十六日
施氏 素筠	臺灣臺北州臺北第三高等女學校	大正十二年九月十五日	野村 黎子	日本女子大學附屬高等女學校	大正十一年九月四日
四宮 茂代	東京東洋高等女學校	大正十二年三月廿一日	林 富美子	千葉縣立安房高等女學校	大正十二年二月五日
島津 榮枝	佐賀縣立佐賀高等女學校	大正十一年十二月六日	二荒 明子	女子學習院	大正十二年二月六日
神宮あゐ子	東京櫻蔭高等女學校	大正十一年十一月十三日	福島 松枝	東京櫻蔭高等女學校	大正十一年九月三十日
下村 京子	京都府立京都第一高等女學校	大正十一年十一月六日	山村シヅ子	廣島縣立廣島高等女學校	明治四十三年五月十一日
杉本 濱路	横濱鶴見高等女學校	大正十二年二月廿八日	李 順吉	朝鮮京畿公立高等女學校	大正十二年十一月十三日

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
- 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
半ヶ月分	金貳拾錢	金貳拾圓金拾圓
六ヶ月分	金貳拾錢	金拾五圓御斷り
拾貳冊分	金四圓貳拾錢	神田區駿河臺ノ三品田
拾貳冊分	金四圓貳拾錢	廣告社に御申込下さい

昭和十六年一月二十八日印刷納本
 昭和十六年二月一日發行

（外國行郵税は一部金貳拾錢の割にて御拂込下さい）
 幼兒の教育 第四十一卷 第二號

不許複製 禁止轉載

編輯發行所 倉橋 惣三
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 會社 杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきて御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

日書行發館ルベールフ



最、るけ於に界育保兒幼もれ何は書版出社弊
 命生と力な撃真るれなに筆執の生先諸威權高
 。すまりあて籍書な的心良たち充に
 はてい於に界育保兒幼の下制體新時現に特
 。すまりあて以所るす獎推てへ敢と書の携必

書叢育保

修監生先三惣橋倉
 (四六判 1.00 円 6)

編四第	編三第	編二第	編一第
實 驗 保 育 學	幼 稚 園 の 手 技 製 作	自 然 物 お も ち や	膳 眞 規 子 先 生 著 人 形 芝 居 脚 本
目白幼稚園保嬰養成所長 和田 實先生著	東京女高師教諭 同幼稚園保嬰 及川ふみ先生著		東京女高師附屬幼稚園保嬰 菊地ふじの先生 同 徳久孝子先生共著

幼児性行評定尺度

淡路圓治郎先生著

定價 金 一 錢圓
 送料 金 六 錢圓

幼兒發達検査

淡路圓治郎先生 牛島 義友先生共著
 吉田 虎彦先生

定價 金 一 錢圓
 送料 金 六 錢圓

幼稚園律動遊戲曲譜集

附記憶感覺競争遊戲・動作篇
 大阪保育會編

定價 金 二 圓冊

構成々々を
 主としたる
 第一卷 動作集(金三圓)・第二卷 曲譜集(金二圓)

子供の舞踊

石井漠先生著

定價 金 二 圓五十錢
 送料 金 十 錢圓

シルエットの作り方

鈴木重章先生著

定價 金 一 錢圓
 送料 金 六 錢圓

食館ルベールフ 社會式株

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社本
 番七二八三(33)話電・五町後備・區東・阪大 店支
 番八三九一(24)話電

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可

昭和十六年二月二十八日印刷納本



定價參拾五錢